Supported by 日本財団 OCEAN INNOVATION

READ JAPAN PROJECT 地域別概況報告

（2020 年 4 月～2021 年 12 月）

READ JAPAN PROJECT

公益財団法人 日本科学協会
業務部　国際交流チーム

目　次

Ⅰ．全地域概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

１．全地域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

①申請機関分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

②申請機関数・申請冊数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

③寄贈実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

④申請分野・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

⑤推薦・申請理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

⑥輸送費、その平均機関経費・・・・・・・・・・・　・・・・・・・・8

⑦書籍購入費、その平均機関経費・・・・・・・　・・・・・・・・・9

⑧輸送費・書籍購入費合計の冊平均費用・・・・・・・・・・・・・・・10

Ⅱ．地域別概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

1．アジア・オセアニア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

①申請機関分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

②申請機関数・申請冊数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

③寄贈実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

④申請分野別ランキング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

⑤推薦・申請理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

⑥輸送費、書籍購入費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

2．アフリカ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　17

①申請機関分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

②申請機関数・申請冊数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

③寄贈実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

④申請分野別ランキング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

⑤推薦・申請理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

⑥輸送費、書籍購入費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

3．欧州・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

①申請機関分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

②申請機関数・申請冊数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

③寄贈実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

④申請分野別ランキング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

⑤推薦・申請理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

⑥輸送費、書籍購入費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

4. 中東・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
①申請機関分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
②申請機関数・申請冊数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
③寄贈実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
④申請分野別ランキング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
⑤推薦・申請理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
⑥輸送費、書籍購入費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

5. 米州・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
①申請機関分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
②申請機関数・申請冊数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
③寄贈実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
④申請分野別ランキング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
⑤推薦・申請理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
⑥輸送費、書籍購入費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

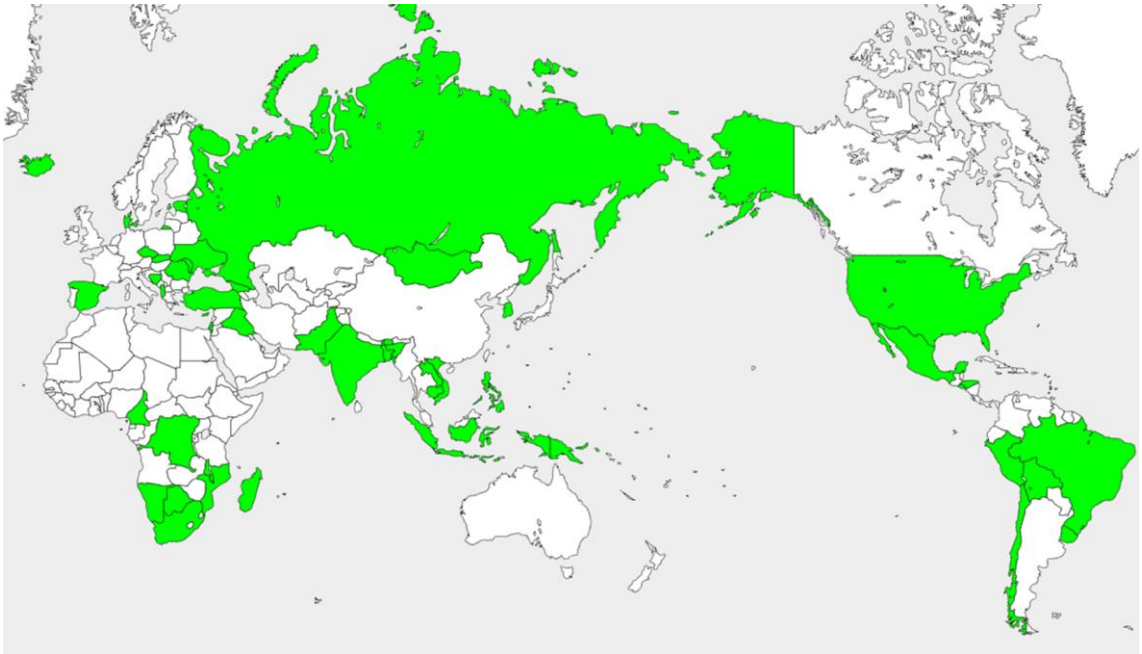
Ⅲ. 参考資料（国別寄贈実績表）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

I.　全地域概況

本報告は、2020 年度及び 2021 年度 READ JAPAN PROJECT の事業対象となる 95 機関 9,641 冊に関する報告である。本報告に係る寄贈図書は、2020 年度に日本財団が寄贈完了（28 機関)、或いは寄贈内定（67 機関）まで実施し、寄贈内定分を 2021 年度に日本科学協会（以下、「本会」という）が、寄贈決定のうえ寄贈実施したものである。

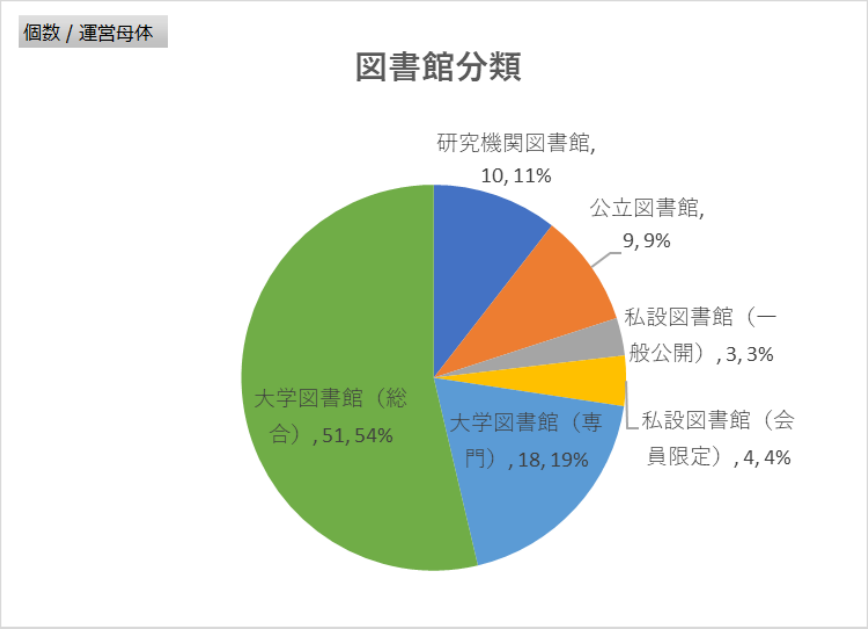
本事業は、世界の高等教育機関及び公共図書館に対し、在外公館からの推薦と本 PROJECT による審査、決定を経て図書寄贈を行うもので、本報告における対象図書は、世界の 48 ヶ国・地域の 95 機関に対する 9,641 冊（寄贈実施 8,537 冊/92 機関）である。そのうち 28 機関への寄贈決定図書 2,912 冊については、日本財団が 2020 年 10 月に寄贈を完了した。また、残る 67 機関への寄贈内定図書については、2021 年 4 月、本会が、日本財団から引き継いだもので、途中、キャンセルの申し出があった 3 機関を除く 64 機関に対する 5,625 冊の図書寄贈を本会が決定し、2021 年 8 月に寄贈を完了した。

1.　全地域

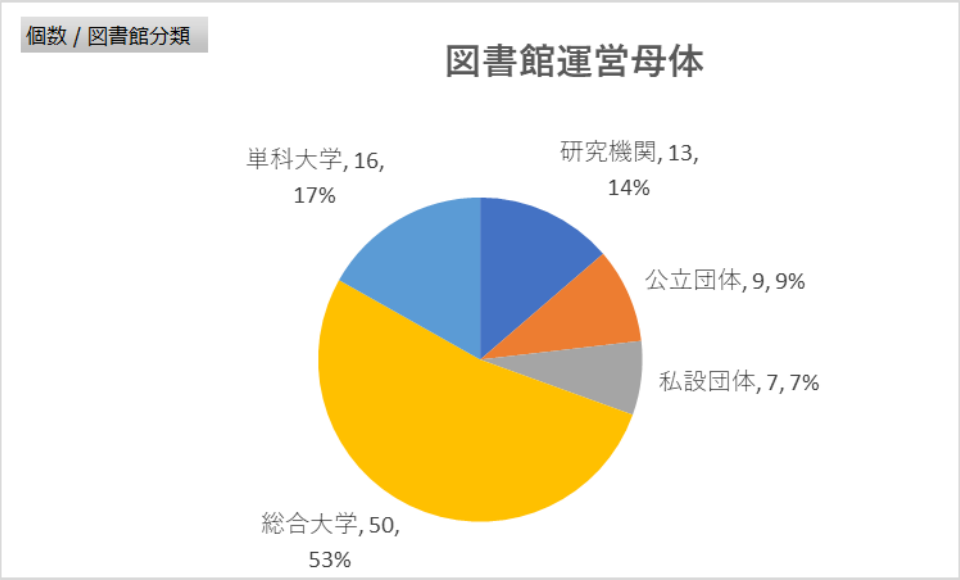


① 申請機関分類

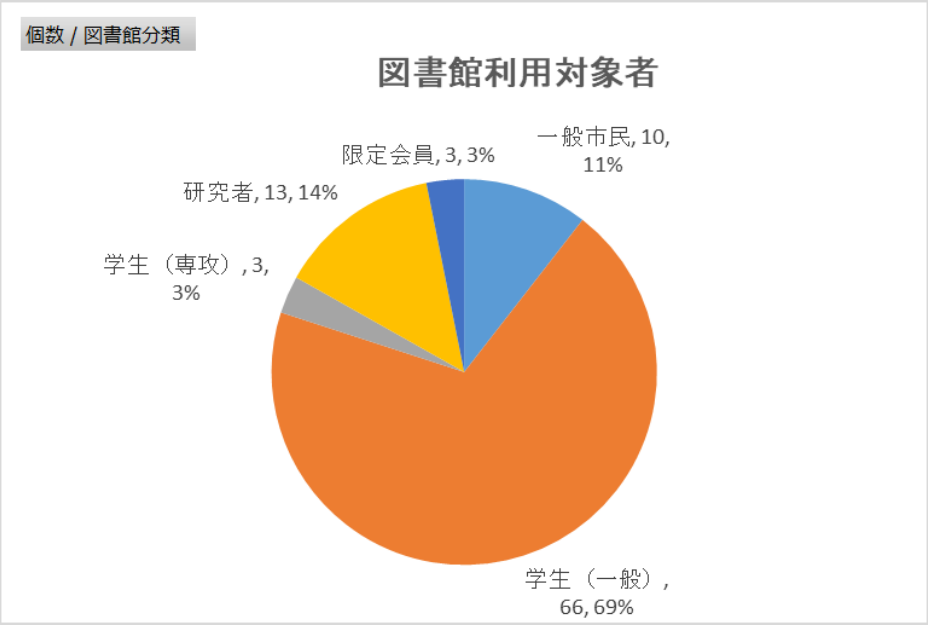
申請のあった 95 機関のうち、最も多いのは大学図書館で、幅広い分野の蔵書を有する総合図書館（54%）のほか、特定の学部研究科に付属する専門図書館（19%）からの申請も見られた。国際関係のシンクタンクが 11%、公立図書館が 9%のほか、私設団体では日本文化に関連する基金、日本語教師団体や、私立学院も見られた。



これらの図書館を運営母体別に分類すると、総合大学が最も多く 53%を占め、次いで単科大学が 17%、研究機関が 14%であった。国公立図書館は 9%、私設団体は 7%であった。

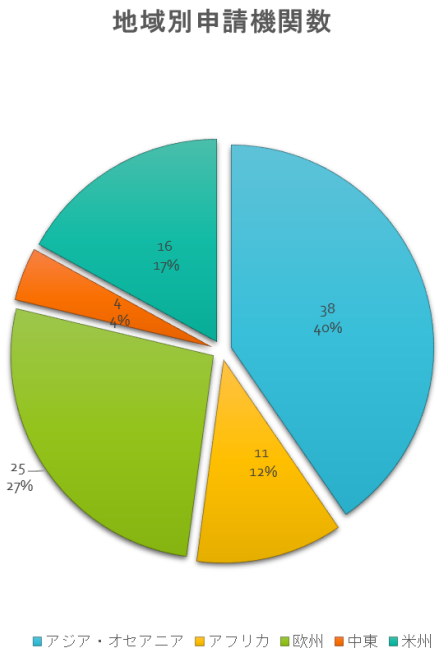


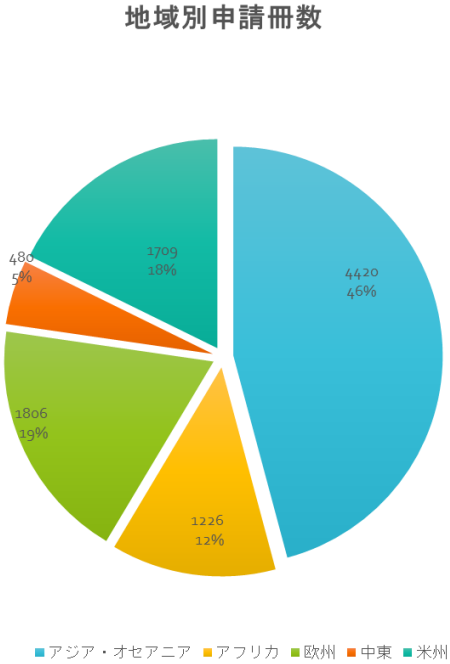
これらの図書館の利用対象者として想定されるのは、大学図書館では学生であり、専攻分野を超えて所属学生一般に広く門戸が開かれているとみられる（69%）。一方、日本研究学部や地域研究センター専属の図書館など、専攻の学生の利用が想定される場合も見られた。専門の研究者を対象とする研究機関（14%）、一般市民を対象とする公立図書館や文化施設（11%）、日本語教師団体、科学協会や私設学院等の会員を対象とするとみられる施設もあった（3%）。



② 申請機関数・申請冊数

機関と冊数ともに最も多いのはアジア・オセアニア地域で（38 機関 4,420 冊）、次いで欧州（25 機関 1,806 冊）、米州（16 機関 1,709 冊）、アフリカ（11 機関 1,226 冊）であった。中東は、4 機関 480 冊と際立って少なかった。



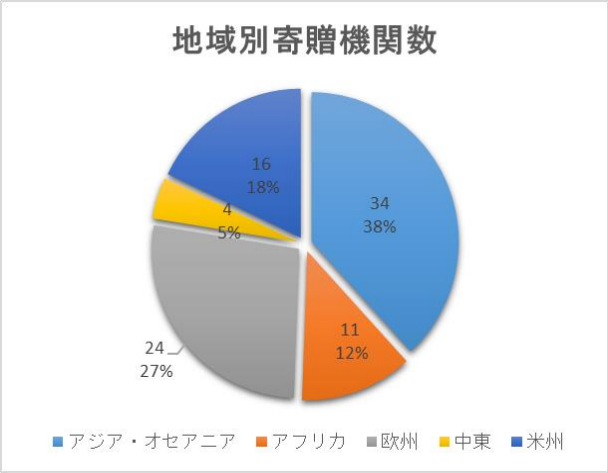


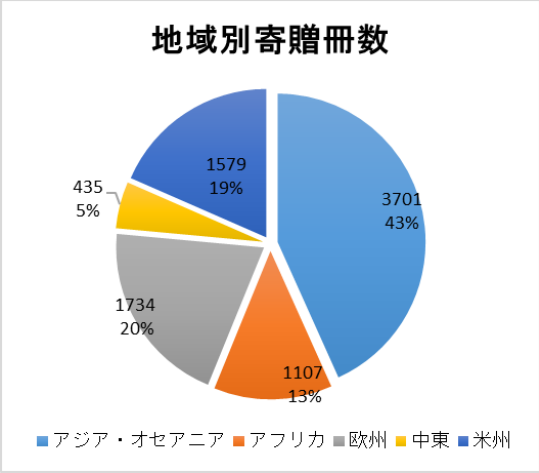
③ 寄贈実績

寄贈機関は、欧州 1 件（アイスランド）、アジア 2 件（ベトナム）のキャンセルがあったため、全 92 機関となった。ベトナムのキャンセルは、関税等の現地発生費用を負担する事前承諾があったものの、想定を上回る予算が確保できず、やむを得ないものであった。

寄贈冊数は、在庫確定後に振り分けを行い、8,537 冊となった。なおベトナムでは、ホーチミン

総領事館管轄の 6 大学図書館に対し、税関で検閲される可能性を総領事館から指摘された書籍 4 冊について、該当する申請分を除外している。





④ 申請分野

分野別の申請は、社会・文化、文学・芸術、政治・国際関係、経済ビジネス、歴史の全分野にわたり、偏りなくバランスよく配分されている。社会・文化が最も多く、文学・芸術と合わせてほぼ半数となる。残り半分を、政治、経済、歴史で大きく三分している。

申請機関別では、申請書籍の分野や冊数に一部大きくばらつきが見られる。学部や図書館の専攻や収容規模、担当職員の専門性や関心・無関心や選好等が、ランダムな要因として推測される。しかし結果として、全地域の配分では大きな不均衡は見られなかった。

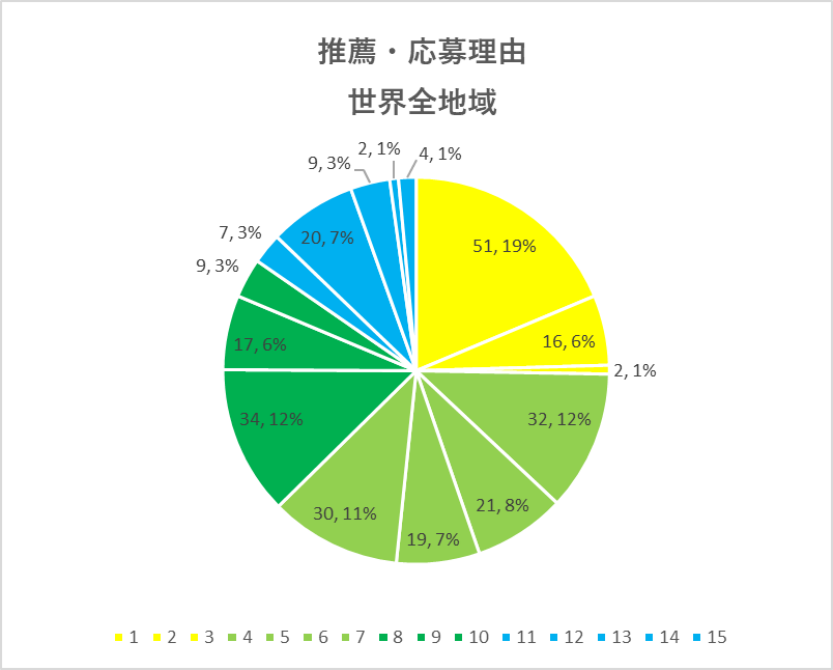
⑤ 推薦・申請理由

次に、推薦・申請理由について、物的要因、人的要因、組織的要因、制度的要因の各項目について分類した。

最も多いのは人的要因で、全体の 38%を占めた。教職員の需要、教育や教材の質の向上のほか、将来の留学生の発掘や、一般利用者の日本に関する理解・関心を高める目的も見られた。次いで、物的要因が 26%となり、日本に関する蔵書や英語の情報源の拡充や予算が挙げられた。さらに、組織的要因が 21%となり、日本語専攻や日本研究や交換留学等に組織的に取り組む機

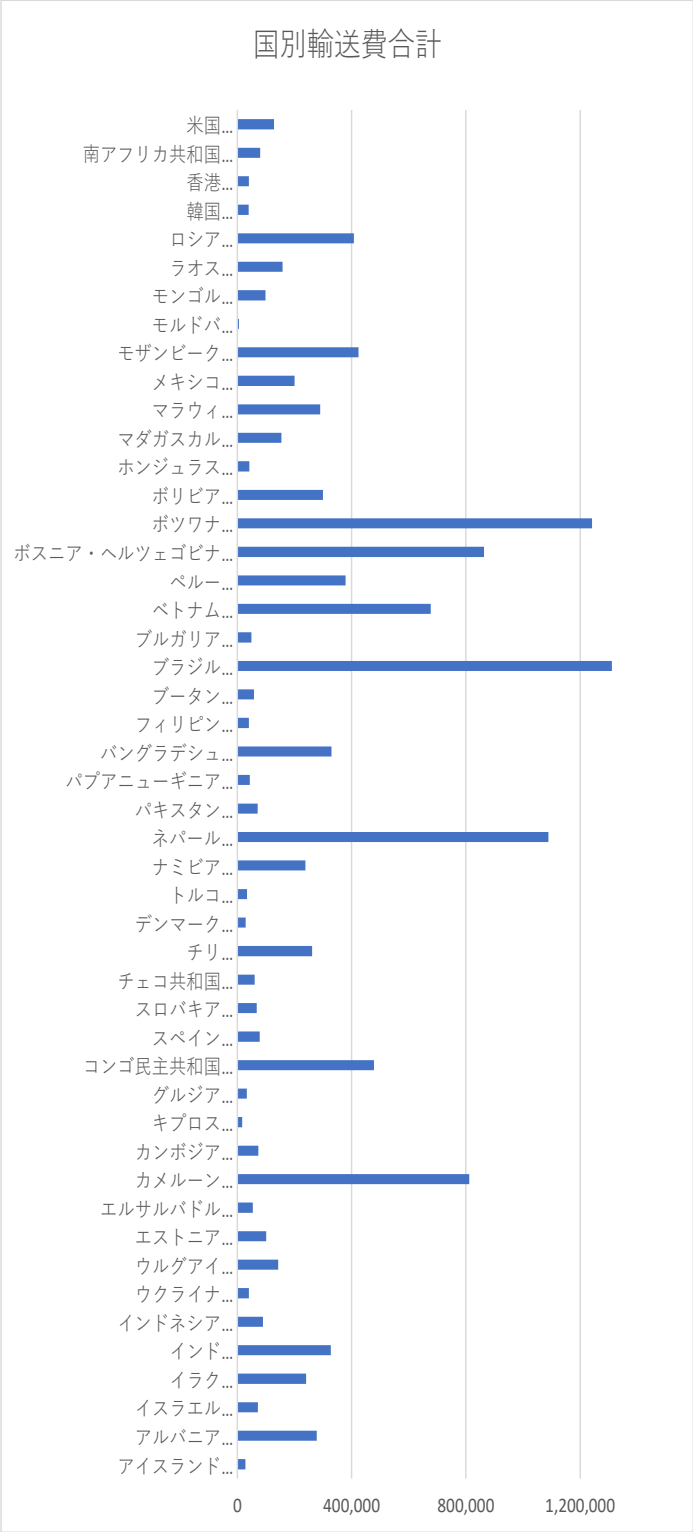
関や日本研究の国家拠点からの機能強化のほか、他学部や教養学科からも学際的な相乗効果が挙げられた。また、制度的要因が 15%となり、外務省や JICA による支援事業の強化、国家や企業や市民間の友好関係の継続と発展、知日派の育成等が挙げられた。

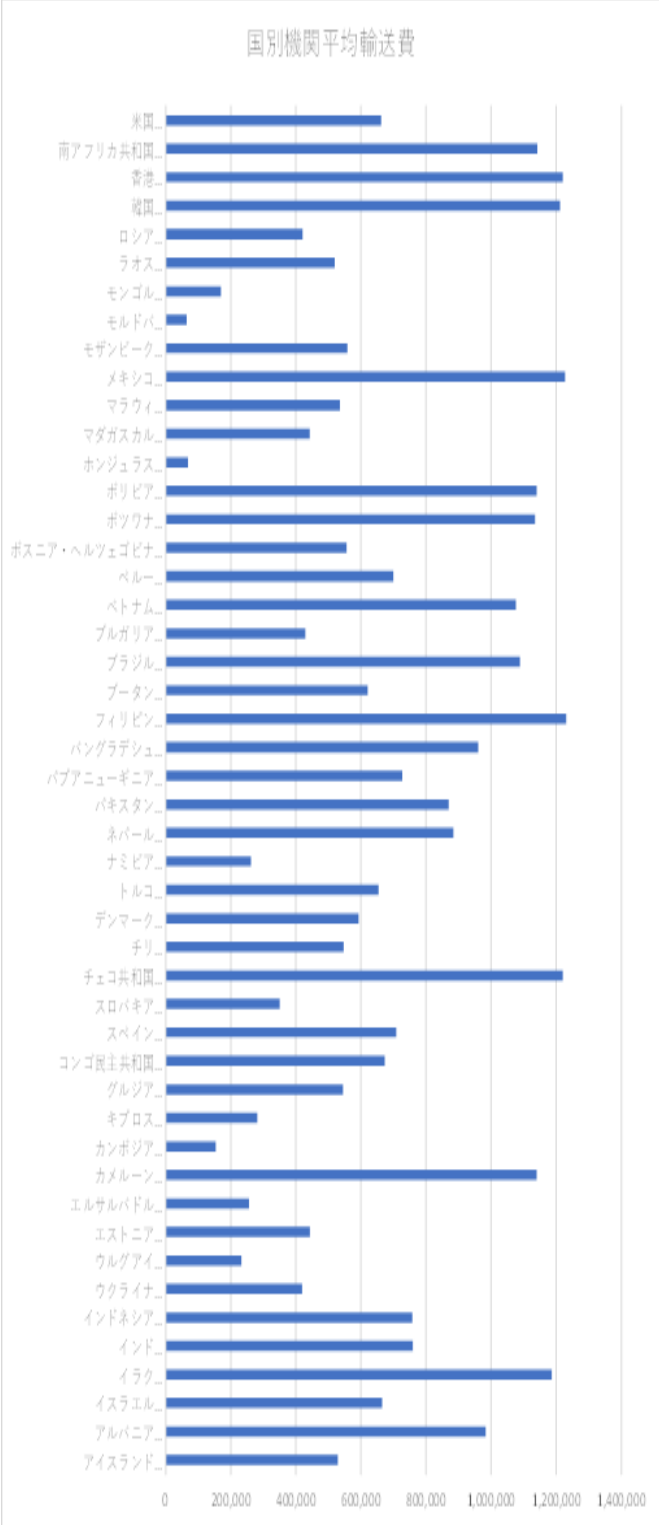
1	日本に関する書籍・情報源がないため、更新するため、拡充するため	物的要因
2	英語での海外に関する情報源を拡充するため	物的要因
3	予算がないため	物的要因
4	教員・職員・学生の日本に対する興味関心や需要が高いため	人的要因
5	教育の普及と質を向上させるため、教材を充実させるため	人的要因
6	日本に興味のある学生、将来の留学生を発掘するため	人的要因
7	日本に関する理解・関心を高めるため	人的要因
8	日本語専攻、日本研究講座、日本との交換留学制度があるため、新設するため	組織的要因
9	学際的な相乗効果を期待するため	組織的要因
10	国の日本語教育の中心的役割を果たしているため	組織的要因
11	日本の支援により建設されたため	制度的要因
12	日本との外交友好関係強化のため	制度的要因
13	JICAチェア対象機関であるため	制度的要因
14	日本企業とのつながりが強いため	制度的要因
15	中国からの支援が多く、日本のプレゼンスが必要	制度的要因



⑥ 輸送費、その平均機関経費

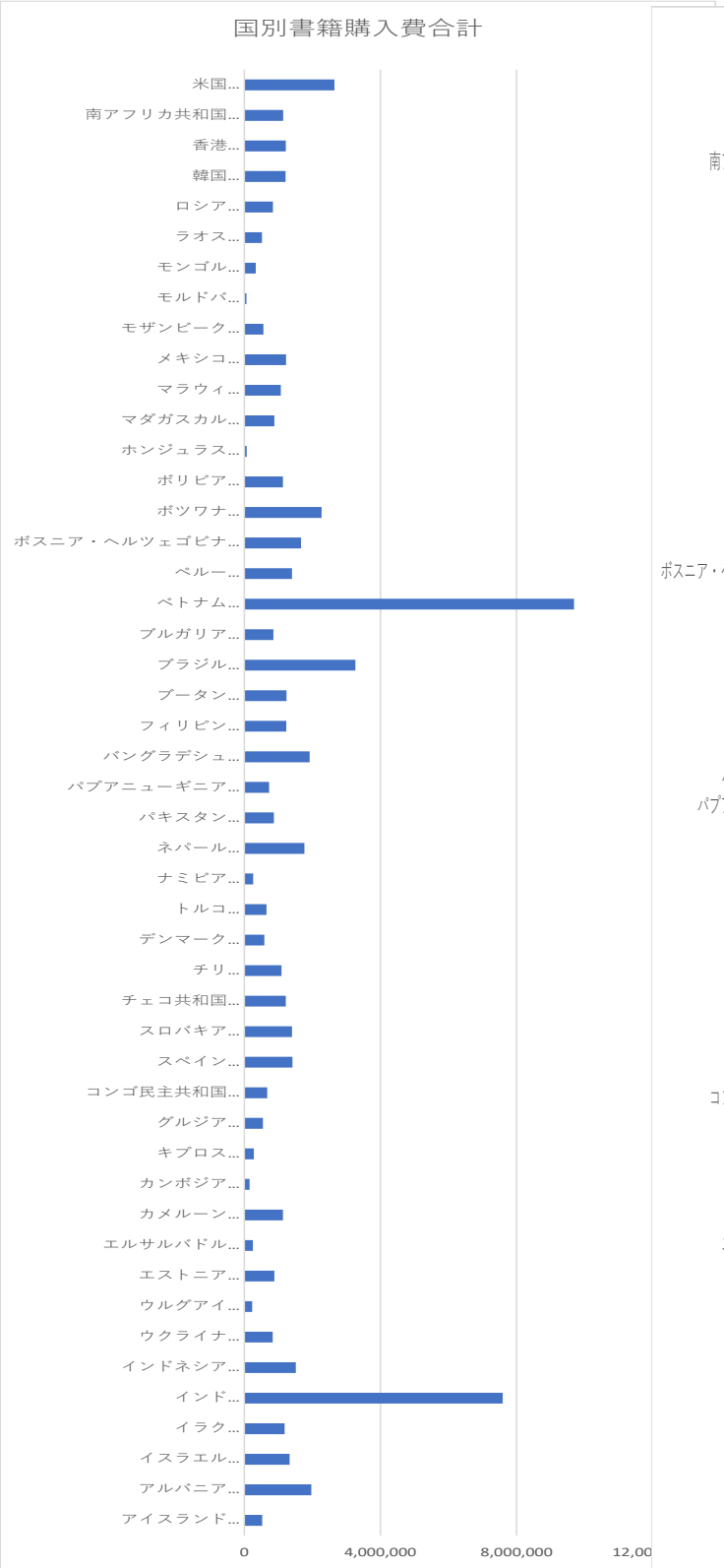
各国宛ての延べ輸送費は、ブラジル（2 機関）、次いでボツワナ（2 機関）がそれぞれ航空便で最も高額となった。1 機関宛ての輸送費が航空便で最も高額となったのは、カメルーン、次いでボツワナであるが、船便による輸送が多いほど安価という結果となった。

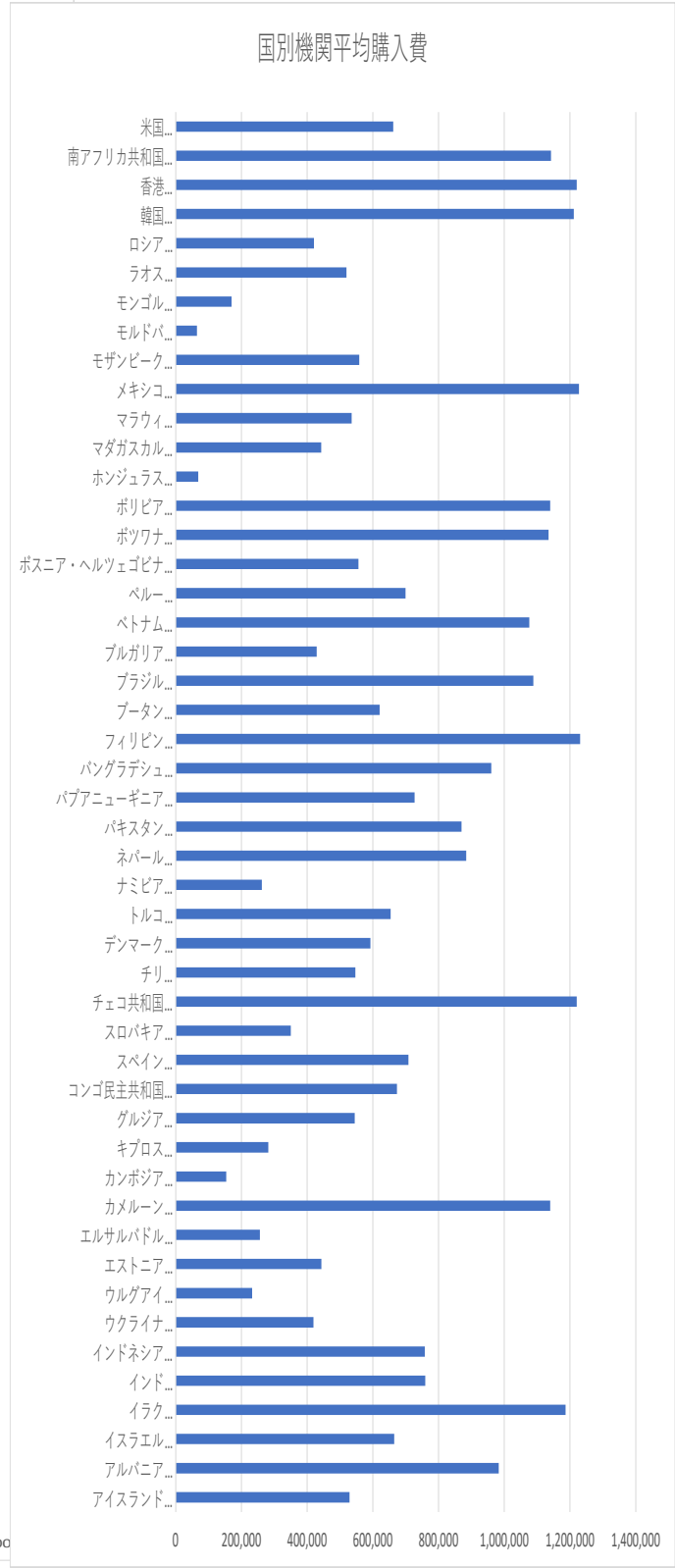




⑦ 書籍購入費、その機関平均経費

各国宛ての延べ書籍購入費は、ベトナム（9 機関）、次いでインド（10 機関）がそれぞれ寄贈機関数も多く最も高額となった。1 機関宛ての書籍購入費が最も高額となったのは、フィリピン、次いでメキシコ、香港である。

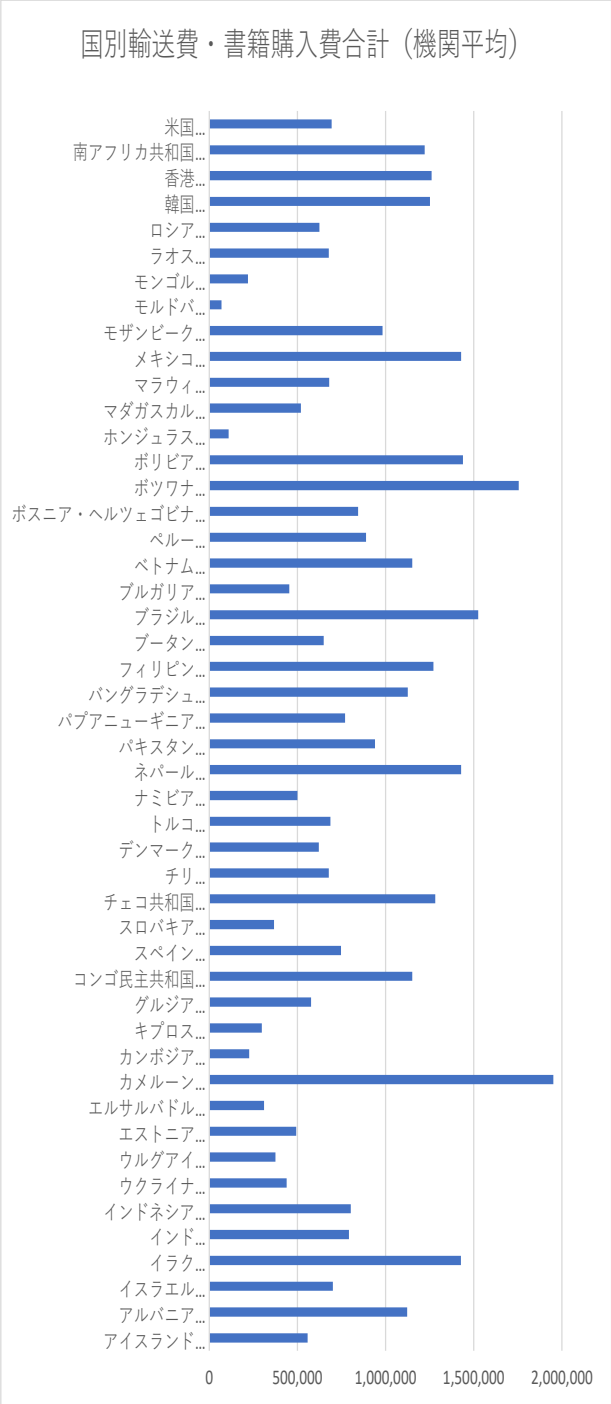


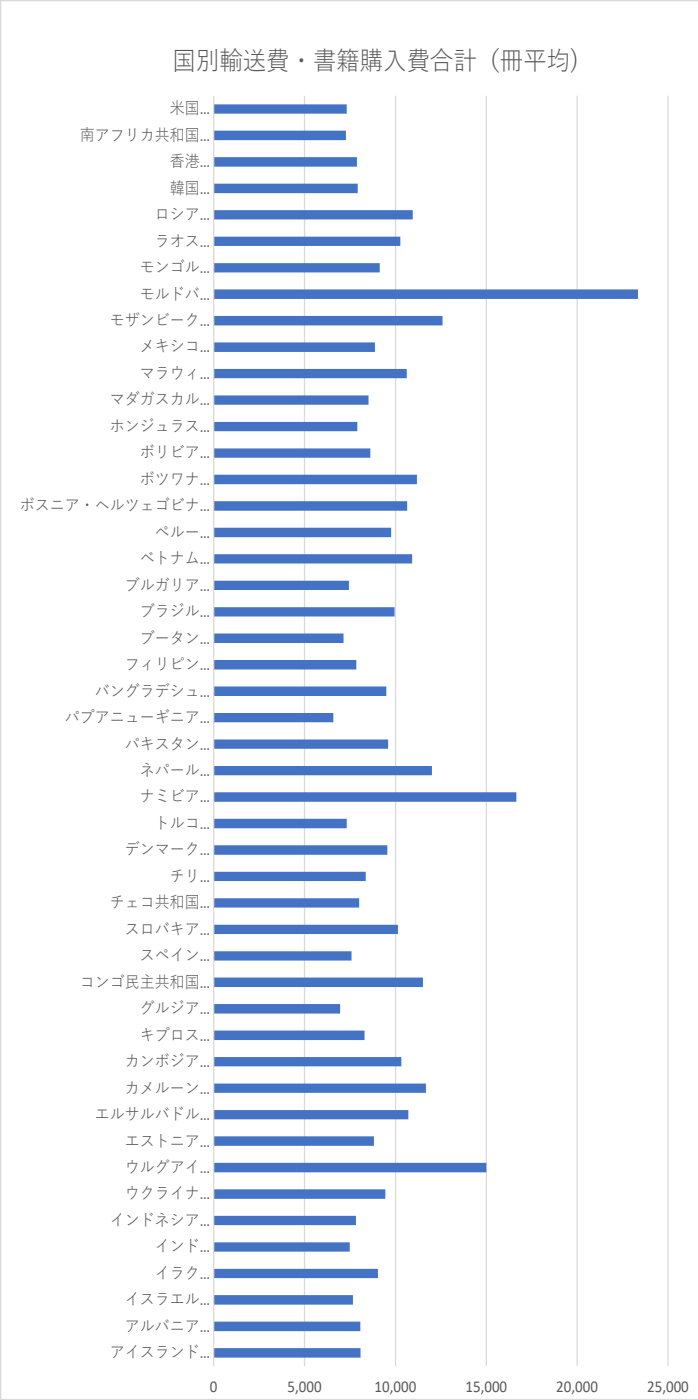


⑧ 輸送費・書籍購入費合計の平均費用

輸送費と書籍購入費の合計の国別機関平均費用は、167 冊（1 機関あたり寄贈冊数が全地域で 2 番目に多い）の書籍を航空便で輸送したカメルーンが最も高額となり、ブラジル、ボツワナ、ボリビアが続いた。全地域における全体の輸送費と書籍購入費の合計の機関平均は、約 844,000 円となった。

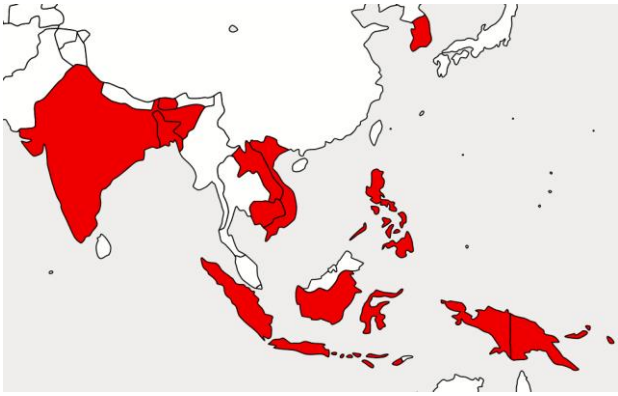
輸送費と書籍購入費の合計の国別冊平均費用は、ごく少数の書籍を航空便で輸送したモルドバが最も高額となり、ナミビア、ウルグアイ、モザンビークが続いた。全地域における全体の輸送費と書籍購入費の合計の冊平均は、約 9,100 円となった。





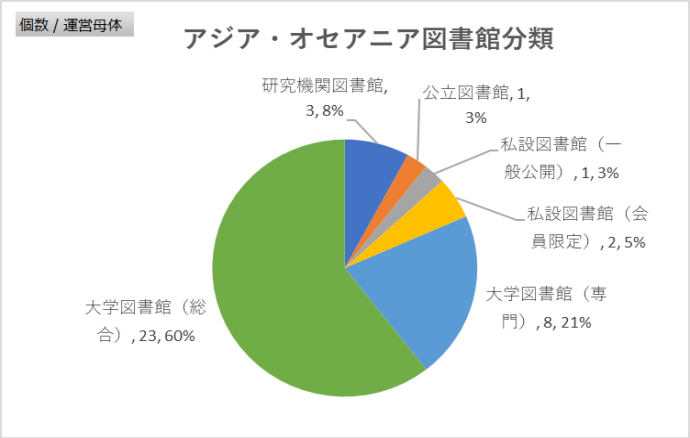
II. 地域別概況

1. アジア・オセアニア

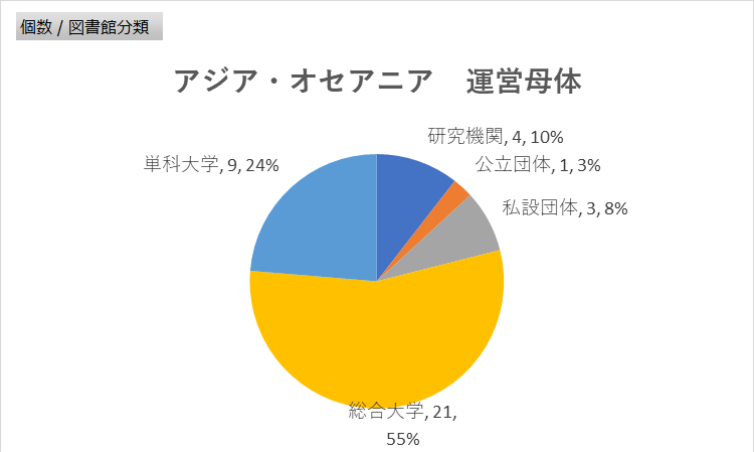


① 申請機関分類

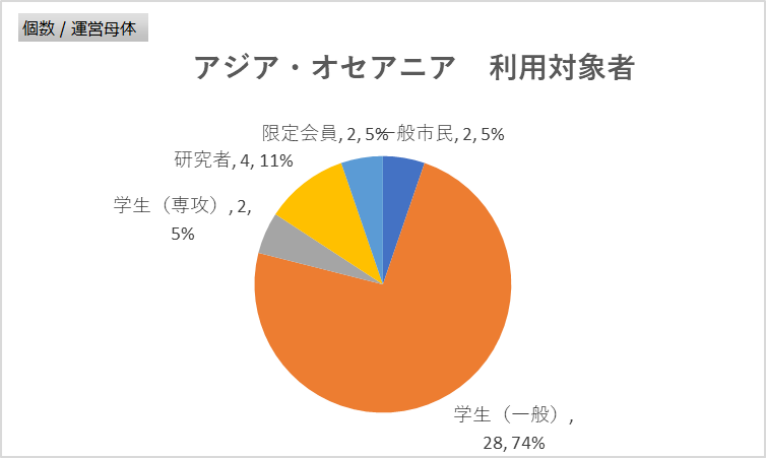
最も多いのは大学図書館で、幅広い分野の蔵書を有する総合図書館（60%）のほか、特定の学部研究科に付属する専門図書館（21%）からの申請も見られた。研究機関が 8%、公立図書館が 3%のほか、私設団体では日本語教師団体や、私立学院も見られた。



これらの図書館を運営母体別に分類すると、総合大学が最も多く 55%を占め、次いで単科大学が 24%、研究機関が 10%であった。公立図書館は 3%、私設団体は 8%であった。

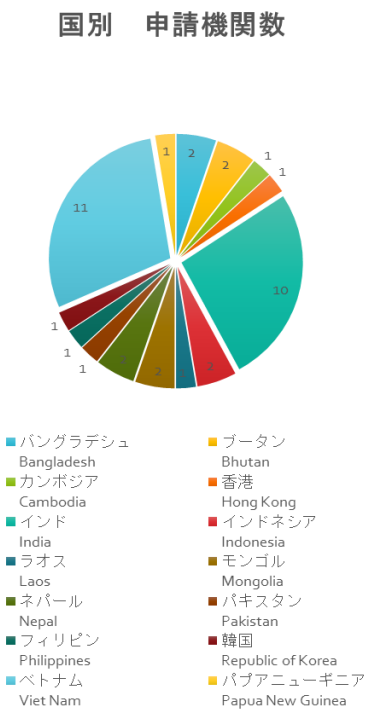


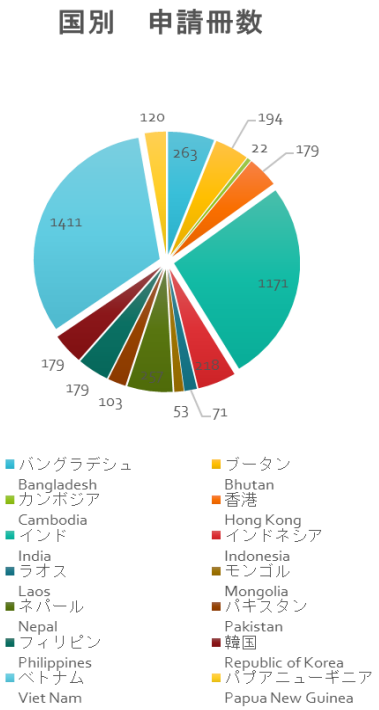
これらの図書館の利用対象者として想定されるのは、大学図書館では学生であり、専攻分野を超えて所属学生一般に広く門戸が開かれているとみられる（74%）。一方、日本研究学部や地域研究専属の図書館など、専攻の学生の利用が想定される場合も見られた。専門の研究者を対象とする研究機関（11%）、一般市民を対象とする公立図書館や文化施設（5%）、教師団体や私設学院等の会員を対象とするとみられる施設もあった（5%）。



② 申請機関数・申請冊数

機関と冊数ともに最も多いアジア・オセアニア地域（38 機関 4,420 冊）のうち、国別で最も申請機関数が多いのはベトナム（11 機関 1,411 冊）、次いでインド（10 機関 1,171 冊）であった。その他の国々は、規模を大きく縮小し、バングラデシュ（2 機関 263 冊）、ネパール（2 機関 257 冊）、インドネシア（2 機関 218 冊）が続く。申請が最も少ないのはカンボジア（1 機関 22 冊）であった。

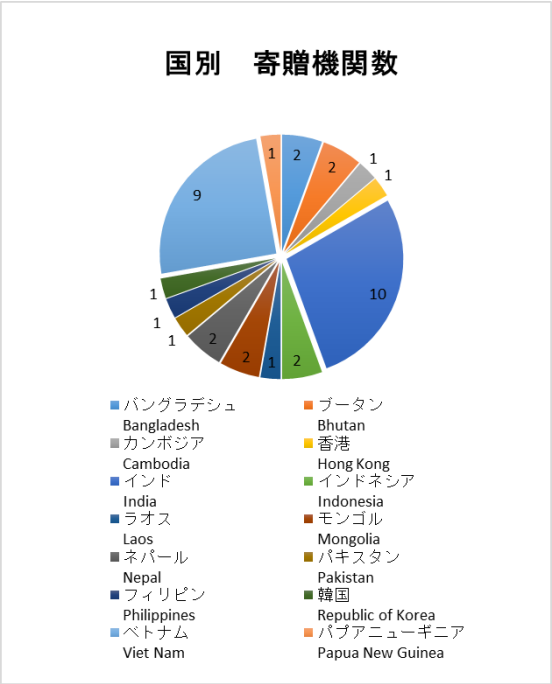


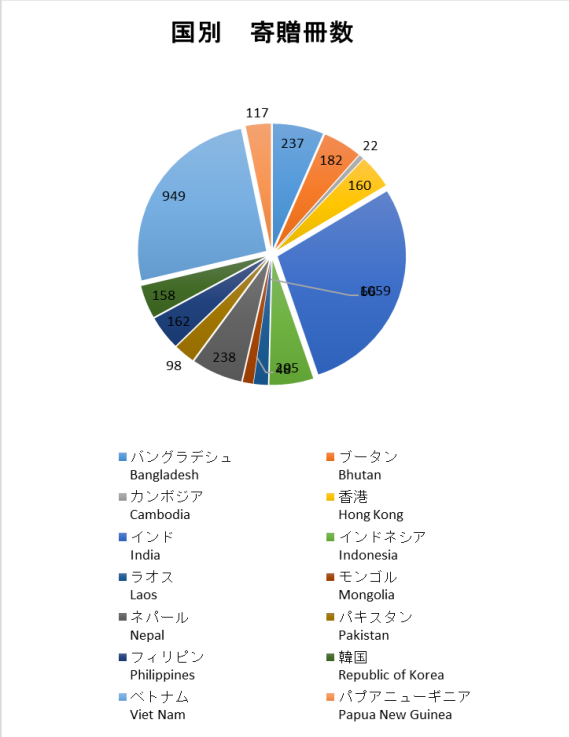


③ 寄贈実績

寄贈機関は、ベトナム 2 件のキャンセルがあったため、全 36 機関となった。ベトナムのキャンセルは、ホーチミンの 2 大学であった。関税等の現地発生費用を負担する事前承諾があったものの、ホーチミン税関当局で想定される額（最大 USD2,500.-）を上回る予算が確保できない大学機関にとり、やむを得ないものであった。

寄贈冊数は、在庫確定後に振り分けを行い、3,701 冊となった。なおベトナムでは、ホーチミン総領事館管轄の 6 大学図書館に対し、税関で検閲される可能性を総領事館から指摘された書籍 4 冊に該当する書籍について、申請のあった 3 冊分を各大学から除外している。





④ 申請分野別ランキング

■　政治・国際関係

Media and Politics in Japan, The Logic of Japanese Politics, Japanese Foreign Policy が各 30 冊で、僅差でトップとなった。

最下位は、An Anticlassical Political-Economic（13 冊）、Japan Capes with Calamity（15 冊）、Precarious Japan（18 冊）であった。

■　経済・ビジネス

最上位は、Japan in the 21st Century（33 冊）、The Japanese Economic System（30 冊）、The Japanese Company（29 冊）であった。

最下位は、Japan Remodeled（9 冊）、The Public Sector in Japan（20 冊）、MITI and the Japanese Miracle と Native Sources of Japanese が各 21 冊であった。

■　社会・文化

最上位は、Japanese Society（31 冊）、Family and Social Policy in Japan（30 冊）、Science, Technology and Society in Contemporary Japan と Japan and the Culture of the Four Seasons と

Bushido が各 29 冊であった。

最下位は、Rikuzentakata 2011–2014（17 冊）、Bending Adversity と Empire of the Signs が 19 冊であった。

■　文学・芸術

最上位は Contemporary Japanese Literature（30 冊）、Contemporary Japanese Film、Five Modern Japanese Novelists、Japanese Women Writers、Origins of Modern Japanese Literature が各 28 冊であった。

最下位は、Radicalism in the Wilderness（ 17 冊）、Kafu the Scribbler、The Legends of Tono、Long Strange Journey が各 19 冊であった。

■　歴史

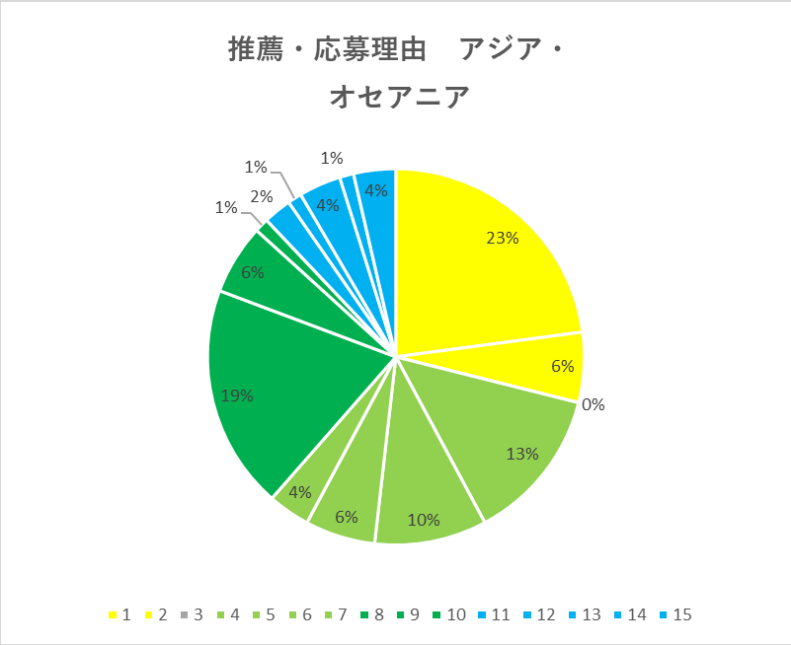
最上位は、The Making of Modern Japan（33 冊）、A Cultural History of Japanese Buddhism（32 冊）、A Modern History of Japan（30 冊）であった。

最下位は、The Abacus and the Sword と The Conquest of Ainu Lands が各 22 冊、Who Was Responsible?が 23 冊であった。

⑤ 推薦・申請理由

最も多いのは人的要因で、全体の 33%を占めた。次いで物的要因が 29%、組織的要因が 26%、制度的要因が 12%であった。

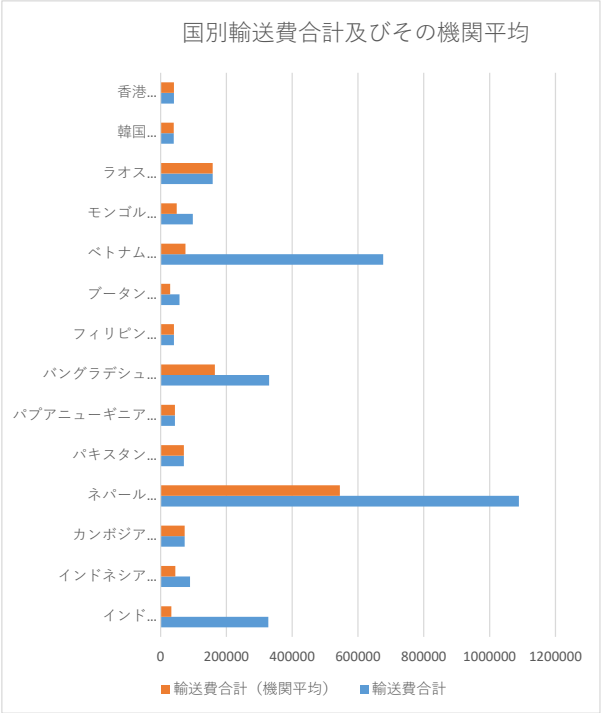
1	日本に関する書籍・情報源がないため、更新するため、拡充するため	物的要因
2	英語での海外に関する情報源を拡充するため	物的要因
3	予算がないため	物的要因
4	教員・職員・学生の日本に対する興味関心や需要が高いため	人的要因
5	教育の普及と質を向上させるため、教材を充実させるため	人的要因
6	日本に興味のある学生、将来の留学生を発掘するため	人的要因
7	日本に関する理解・関心を高めるため	人的要因
8	日本語専攻、日本研究講座、日本との交換留学制度があるため、新設するため	組織的要因
9	学際的な相乗効果を期待するため	組織的要因
10	国の日本語教育の中心的役割を果たしているため	組織的要因
11	日本の支援により建設されたため	制度的要因
12	日本との外交友好関係強化のため	制度的要因
13	JICAチェア対象機関であるため	制度的要因
14	日本企業とのつながりが強いため	制度的要因
15	中国からの支援が多く、日本のプレゼンスが必要	制度的要因

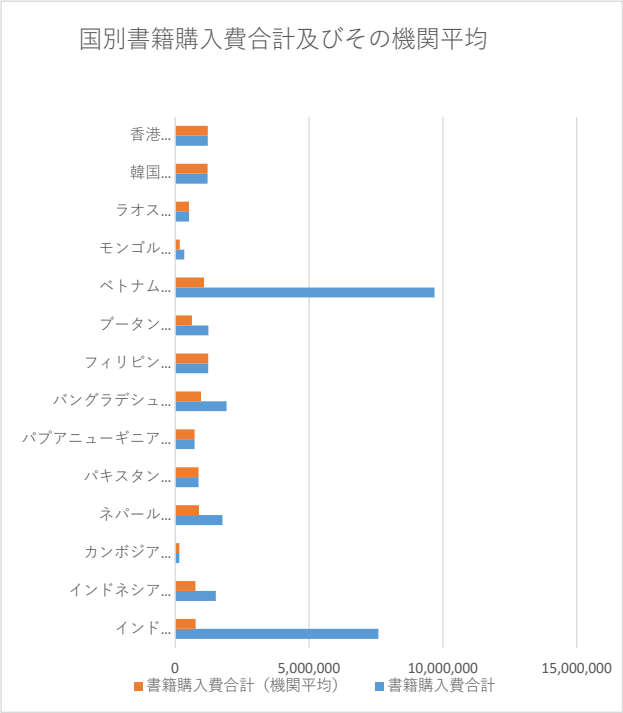


⑥ 輸送費、書籍購入費

各国宛ての延べ輸送費は、ネパール（1 機関）、ベトナム（8 機関）がそれぞれ航空便使用により最も高額となった。1 機関あたりの平均輸送費が最も高額となったのは、ネパール、次いでバングラデシュ、ラオスである。

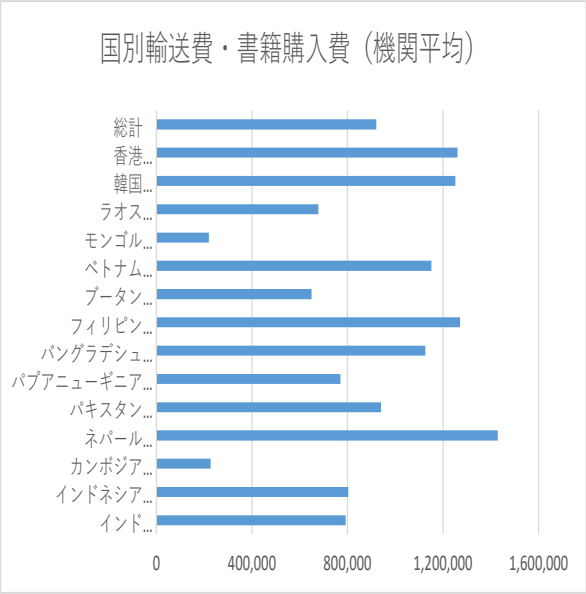
各国宛ての書籍購入費が最も高額となったのは、ベトナム（9 機関）、次いでインド（10 機関、）バングラデシュ（2 機関）で機関数が多いほど高額となった。1 機関あたりの平均書籍購入費については、フィリピン、香港、韓国の順に高額となった。

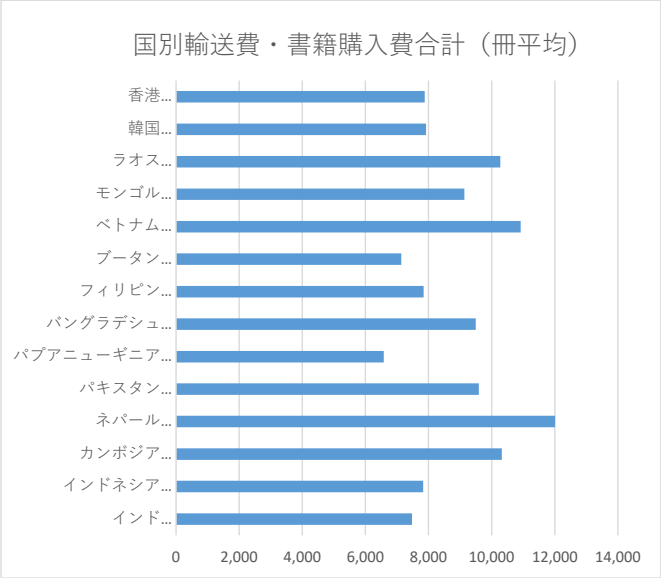




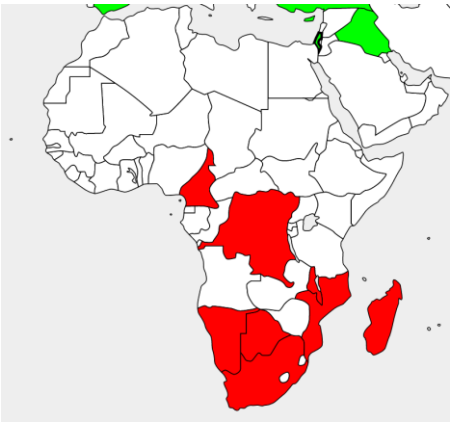
輸送費と書籍購入費の合計の国別機関平均費用は、2 機関合計 238 冊とこの地域における機関平均最多となる寄贈書籍を全て航空便で輸送したネパールが最も高額となり、フィリピン、香港、韓国が続いた。この地域全体の輸送費と書籍購入費の合計の機関平均は、約 920,000 円となった。

輸送費と書籍購入費の合計の国別冊平均費用は、ネパールが最高額で、最低額であったパプアニューギニアの費用の 2 倍弱となった。次いで、ネパール、ベトナム、カンボジア、ラオスの順に高額となり、この地域全体の輸送費と書籍購入費の合計の冊平均は、約 9,000 円となった。



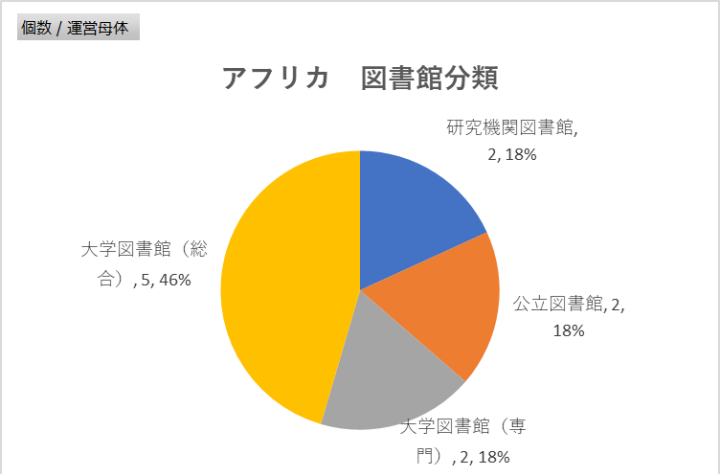


2.　アフリカ

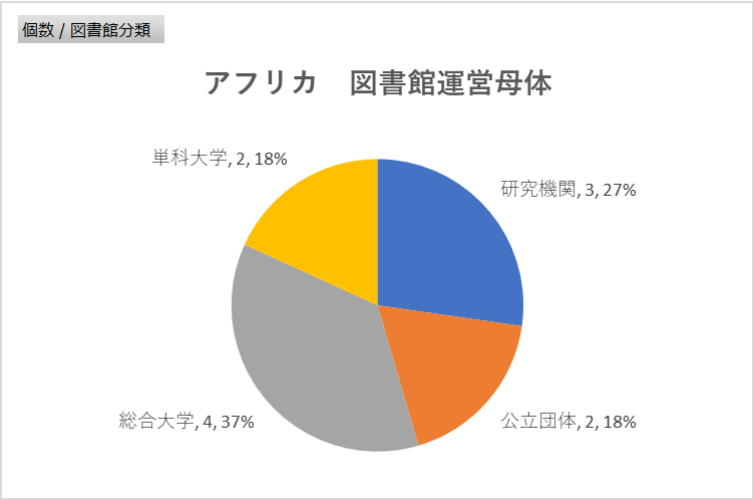


① 申請機関分類

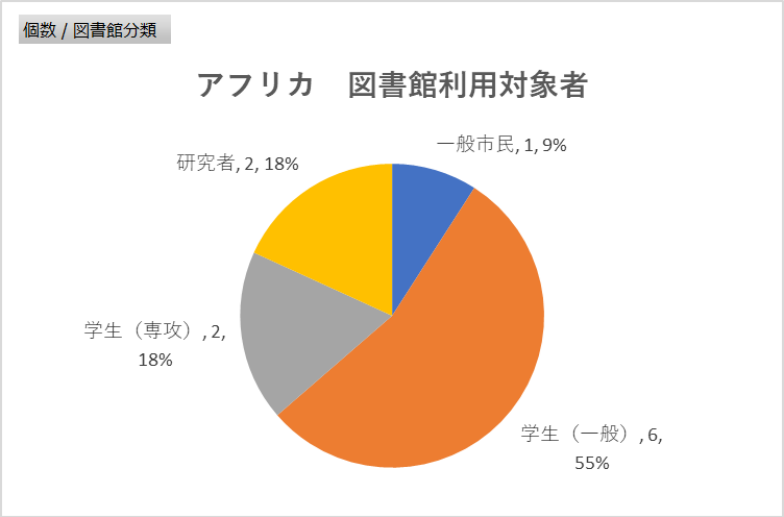
最も多いのは大学図書館で、幅広い分野の蔵書を有する総合図書館（46%）のほか、特定の学部研究科に付属する専門図書館（18%）からの申請もあった。研究機関が 18%、公立図書館が 18%も見られた。



これらの図書館を運営母体別に分類すると、総合大学が最も多く 37%を占め、次いで単科大学が 18%、研究機関が 27%であった。公立図書館は 18%であった。



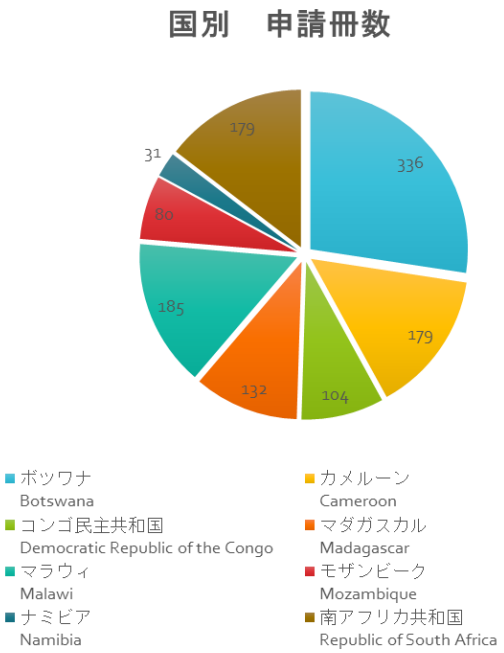
これらの図書館の利用対象者として想定されるのは、大学図書館では学生であり、専攻分野を超えて所属学生一般に広く門戸が開かれているとみられる（55%）。一方、国際関係研究専属の図書館など、専攻の学生の利用が想定される場合も見られた。専門の研究者を対象とする研究機関（18%）、一般市民を対象とする公立図書館（9%）もあった。

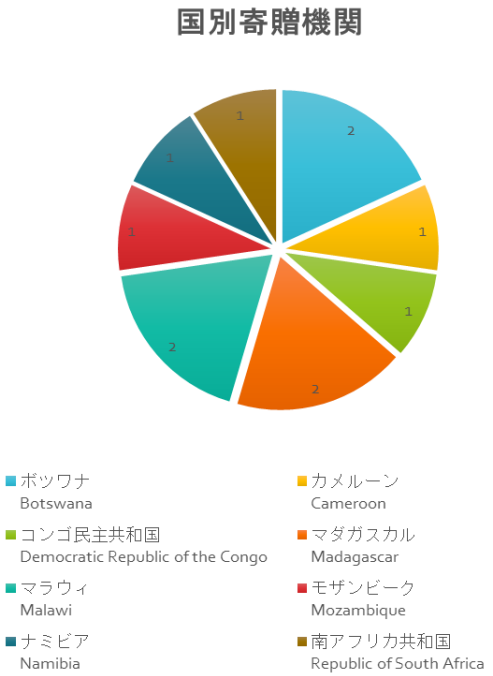


② 申請機関数・申請冊数

アフリカ（11 機関 1,226 冊）のうち、国別で申請機関数が多いのはボツワナ（2 機関 336 冊）、マダガスカル（2 機関 132 冊）、マラウィ（2 機関 185 冊）であった。1 機関で申請冊数が多かったのは、南アフリカ共和国とカメルーンが各 179 冊であった。

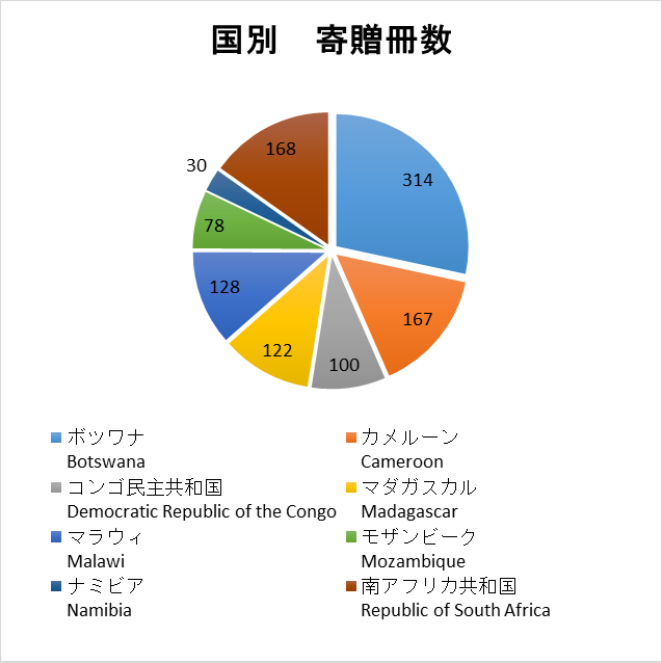
申請が最も少ないのはナミビア（1 機関 31 冊）であった。





③ 寄贈実績

寄贈機関は、申請機関と同じ全 11 機関であった。寄贈冊数は、在庫確定後に振り分けを行い、1,107 冊となった。



④ 申請分野別ランキング

■　政治・国際関係

最上位は、Network Power（11 冊）、Cultural Norms and National Security、Japan Remodeled、Japanese Foreign Policy at the Crossroads、The Logic of Japanese Politics、Intimate Rivals が各 10 冊であった。

最下位は、"The Turbulent Decade（4 冊）、"The Iwakura Mission in America and Europe、Japan Copes with Calamity が各 5 冊であった。

■　経済・ビジネス

最上位は、An Anticlassical Political-Economic Analysis、The Economics of Work in Japan、Four Practical Revolutions in Management、Comparative Institutional Analysis が各 10 冊であった。

最下位は、Lectures on Modern Japanese Economic History, 1926-1994、A Nagging Sense of Job Insecurity、Japan Remodeled が各 5 冊であった。

■　社会・文化

最上位は、Science, Technology and Society in Contemporary Japan、Natural Disaster and Nuclear Crisis in Japan が各 10 冊、The Anatomy of Dependence、Gender and Development が各 9 冊であった。

最下位は、The Happy Youth of a Desperate Country（2 冊）、Edo Culture、Ise Jingu、Rikuzentakata 2011–2014、Lost Japan、Waste: Consuming Postwar Japan、Re-reading the Salaryman in Japan が各 3 冊であった。

■　文学・芸術

最上位は History of art in Japan（9 冊）、Contemporary Japanese Literature、Five Modern Japanese Novelists、Origins of Modern Japanese Literature、The Japanization of modernity、Radicalism in the Wilderness が各 8 冊であった。

最下位は、Obtaining Images Art, Production and Display in Edo Japan、Hokusai、The Artist in Edo: Studies in the History of Art, vol. 80 が各 4 冊であった。

■　歴史

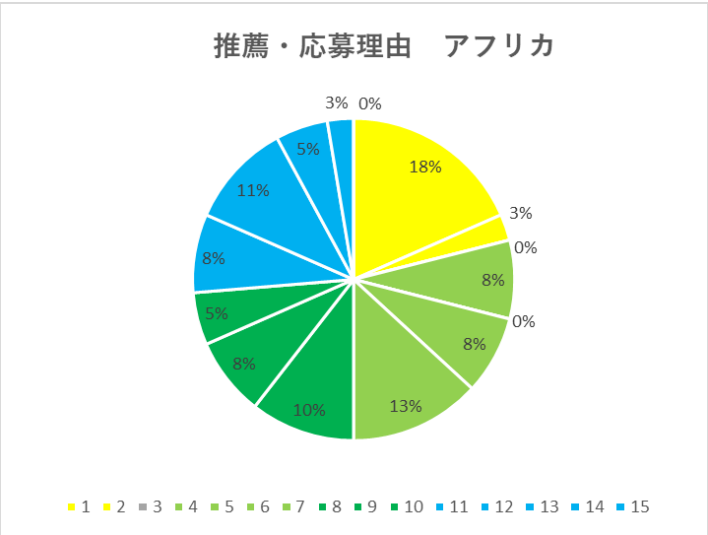
最上位は、The Atomic Bomb、The Making of Modern Japan が各 10 冊、A Modern History of Japan、Japan Since 1945、Japan's Imperial Underworlds が各 9 冊であった。

最下位は、The Conquest of Ainu Lands、Sakamoto Ryoma and the Meiji Restoration、Japan が各 5 冊であった。

⑤ 推薦・申請理由

最も多いのは人的要因で、全体の 29%を占めた。次いで制度的要因が 27%、組織的要因が 23%、物的要因が 21%であった。

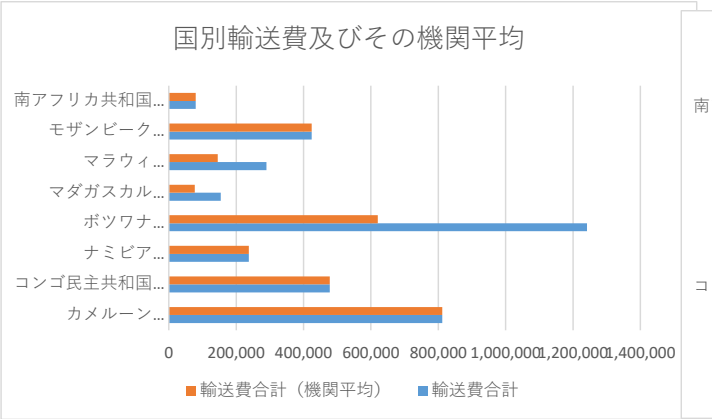
1	日本に関する書籍・情報源がないため、更新するため、拡充するため	物的要因
2	英語での海外に関する情報源を拡充するため	物的要因
3	予算がないため	物的要因
4	教員・職員・学生の日本に対する興味関心や需要が高いため	人的要因
5	教育の普及と質を向上させるため、教材を充実させるため	人的要因
6	日本に興味のある学生、将来の留学生を発掘するため	人的要因
7	日本に関する理解・関心を高めるため	人的要因
8	日本語専攻、日本研究講座、日本との交換留学制度があるため、新設するため	組織的要因
9	学際的な相乗効果を期待するため	組織的要因
10	国の日本語教育の中心的役割を果たしているため	組織的要因
11	日本の支援により建設されたため	制度的要因
12	日本との外交友好関係強化のため	制度的要因
13	JICAチェア対象機関であるため	制度的要因
14	日本企業とのつながりが強いため	制度的要因
15	中国からの支援が多く、日本のプレゼンスが必要	制度的要因

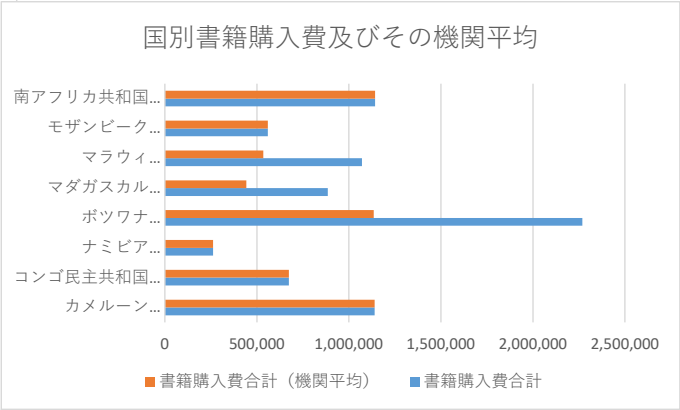


⑥ 輸送費、書籍購入費

各国宛ての延べ輸送費は、ボツワナ 2 機関が航空便で最も高額となった。1 機関あたりの平均輸送費が最も高額となったのは、カメルーンである。

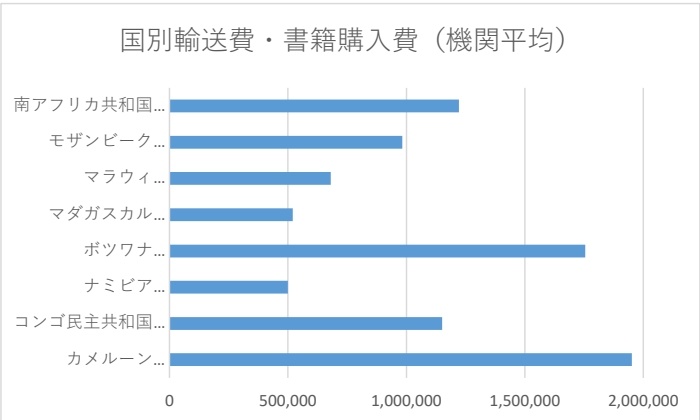
各国宛ての書籍購入費が最も高額となったのは、ボツワナ（2 機関）、次いでカメルーン（1 機関）、南アフリカ（1 機関）と続くが、これら全機関の寄贈冊数は 150 冊を超えており、寄贈機関数と寄贈冊数の多い国が高額となった。1 機関あたりの平均書籍購入費についても、南アフリカ、カメルーン、ボツワナの順に高額となった。

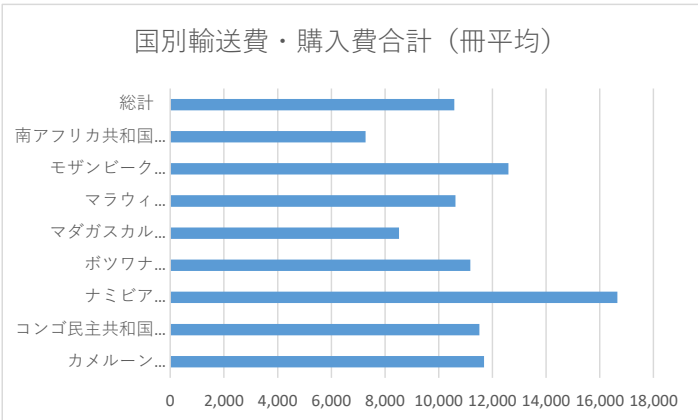




輸送費と書籍購入費の合計の国別機関平均費用は、167 冊（1 機関あたり寄贈冊数が全地域で 2 番目に多い）の書籍を航空便で輸送したカメルーンが最も高額となり、ボツアナ、南アフリカ、コンゴ共和国が続いた。なお、1 機関あたりの寄贈冊数が全地域最多となる 168 冊の書籍を寄贈した南アフリカについては、船便により輸送したため、3 番目に高額となった。この地域全体の輸送費と書籍購入費の合計の機関平均は、約 1,065,000 円となった。

輸送費と書籍購入費の合計の国別冊平均費用は、ナミビアが最高額となった。最低額であった南アフリカの 2 倍強となった。次いで、モザンビーク、カメルーン、コンゴ民主共和国、ボツワナ、マラウィが続き、この地域全体の輸送費と書籍購入費の合計の冊平均は約 10,600 円となった。

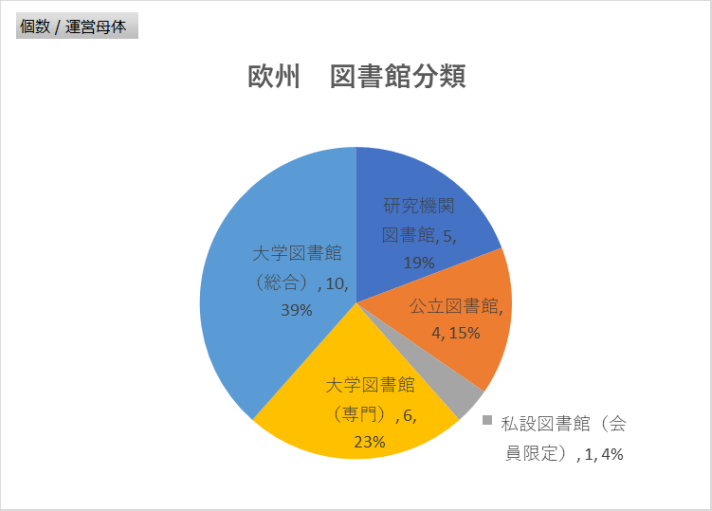




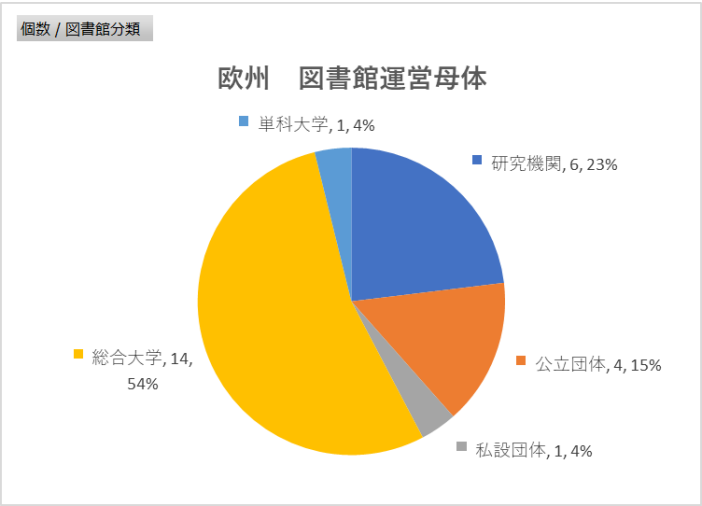
3.　欧州

① 申請機関分類

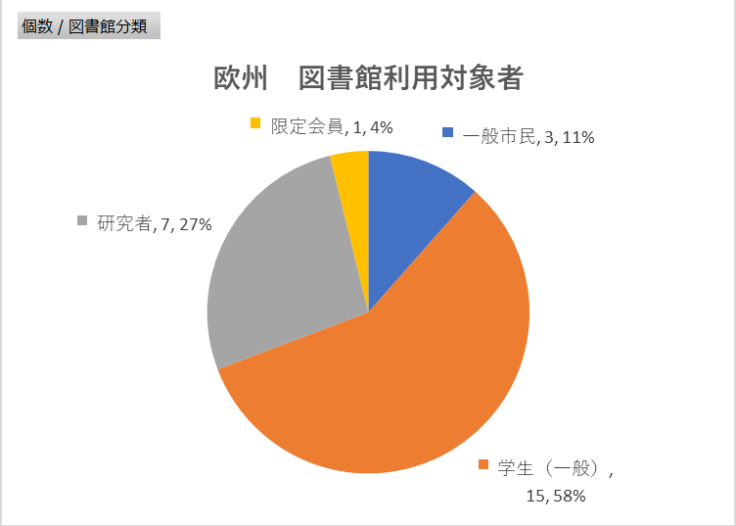
最も多いのは大学図書館で、幅広い分野の蔵書を有する総合図書館（39%）のほか、特定の学部研究科に付属する専門図書館（23%）からの申請もあった。研究機関 19%、公立図書館 15%、私設図書館 4%も見られた。



これらの図書館を運営母体別に分類すると、総合大学が最も多く 54%を占め、次いで研究機関が 27%、公立図書館が 15%、単科大学が 4%、私設団体が 4%であった。

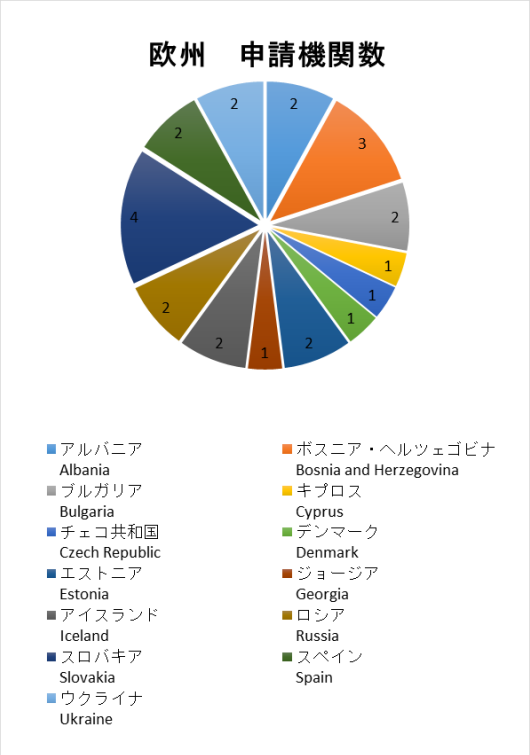


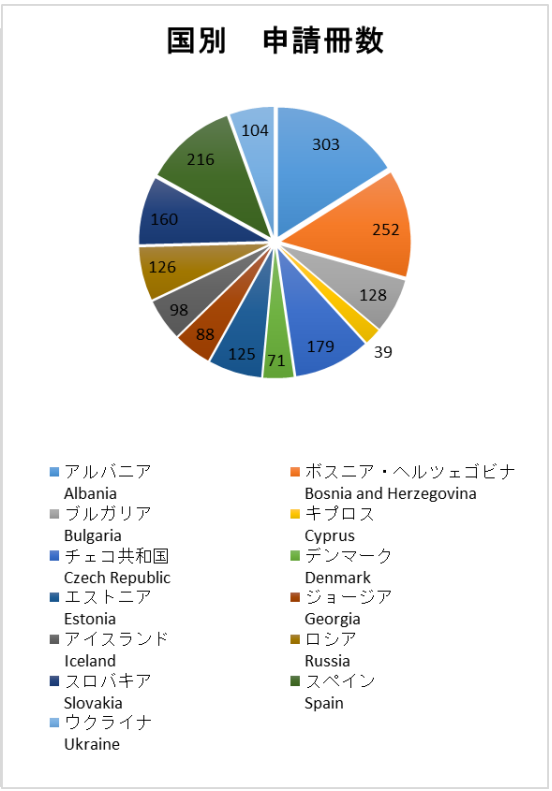
これらの図書館の利用対象者として想定されるのは、大学図書館では学生であり、専攻分野を超えて所属学生一般に広く門戸が開かれているとみられる（58%）。一方、国際関係研究の図書館など、専攻の学生の利用が想定される場合も見られた。専門の研究者を対象とする研究機関(27%)、一般市民を対象とする公立図書館（11%）もあった。



② 申請機関数・申請冊数

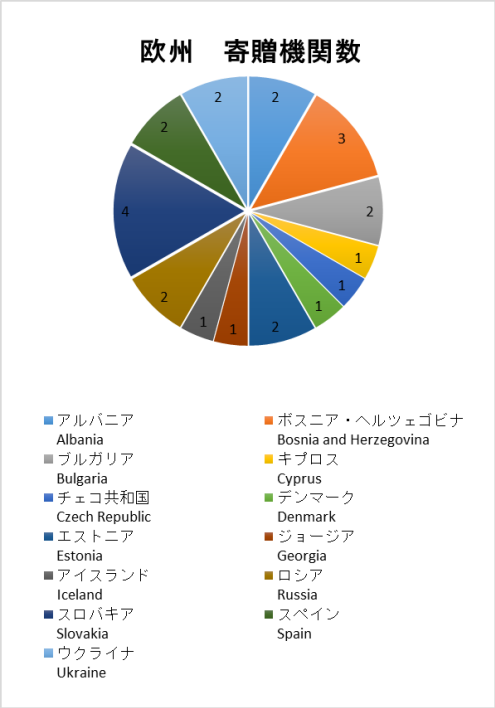
欧州（26 機関 1806 冊）のうち、機関数が最も多かった国はスロバキア（4 機関 160 冊）、ボスニア・ヘルツェゴビナ（3 機関 252 冊）であった。冊数が最も多い国は、アルバニア（2 機関 303 冊）、ボスニア・ヘルツェゴビナ（3 機関 252 冊）、スペイン（2 機関 216 冊）であった。

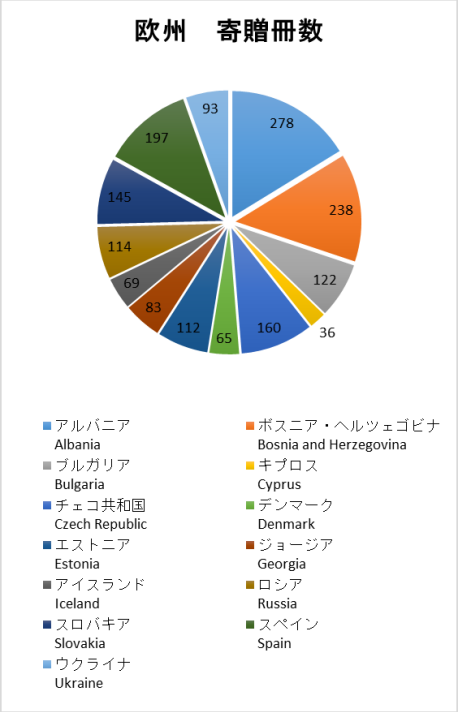




③ 寄贈実績

寄贈機関は、アイスランド 1 件のキャンセルがあったため、全 25 機関となった。寄贈冊数は、在庫確定後に振り分けを行い、1,715 冊となった。





④ 申請分野別ランキング

■　政治・国際関係

最上位は The diplomatic history of postwar Japan（13 冊）、Japan Rising、Japanese Foreign Policy at the Crossroads、The Logic of Japanese Politics、Media and Politics in Japan が各 12 冊であった。

最下位は、An Anticlassical Political-Economic Analysis: A Vision for the Next Century（4 冊）、Japan Copes with Calamity（5 冊）、Japan Remodeled（7 冊）であった。

■　経済・ビジネス

最上位は、The Historical Consumer（15 冊）、Japan in the 21st Century、The Japanese Economic System and its Historical Origins、The Japanese Employment System が各 13 冊であった。

最下位は、Japan's Lost Decade（1 冊）、Japan Remodeled（4 冊）、The Sun Also Sets（7 冊）であった。

■　社会・文化

最上位は、Japan and the Culture of the Four Seasons（17 冊）、Women in Japanese Religions、From Chinese Chan to Japanese Zen、The Japanese House、The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture (Cambridge Companions to Culture)、Premodern Japan、Routledge Handbook of Japanese Culture and Society が各 16 冊であった。

最下位は、Fukushima 2011–2017（1 冊）、The Anatomy of Dependence（4 冊）、Tsukiji（5

冊）であった。

■　文学・芸術

最上位は The Book of Tea、History of art in Japan が各 16 冊、The Penguin Book of Japanese Short Stories、Hokusai が各 15 冊であった。

最下位は、Kokoro、A Personal Matter が各 5 冊、The Life of an Amorous Woman and Other Writings が 6 冊であった。

■　歴史

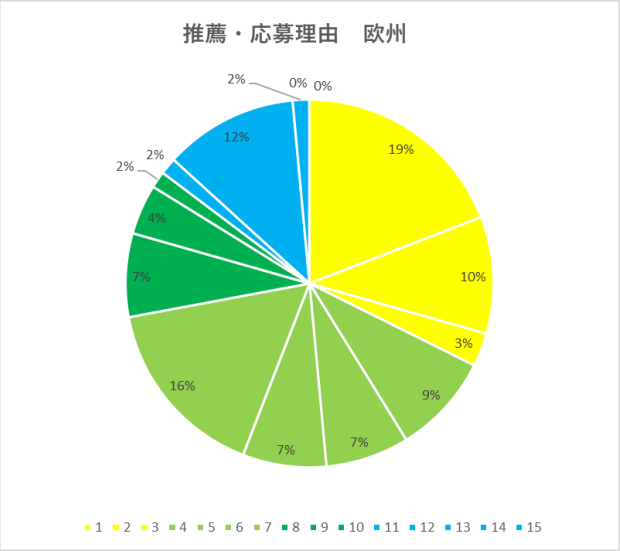
最上位は、A Cultural History of Japanese Buddhism（18 冊）、A New History of Shintō、A Modern History of Japan が各 17 冊であった。

最下位は、From Mahan to Pearl Harbor、War Without Mercy が各 1 冊、A Diary of Darkness、Visions of Ryukyu が各 7 冊であった。

⑤ 推薦・申請理由

最も多いのは人的要因で、全体の 39%を占めた。次いで物的要因が 32%、制度的要因が 14%、組織的要因が 13%であった。

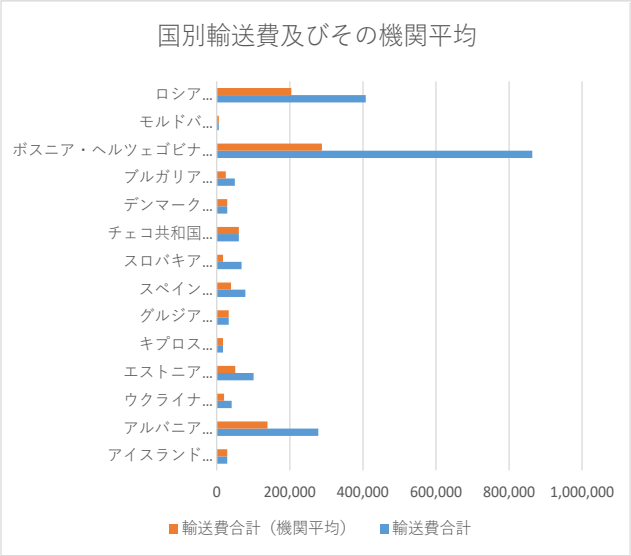
1	日本に関する書籍・情報源がないため、更新するため、拡充するため	物的要因
2	英語での海外に関する情報源を拡充するため	物的要因
3	予算がないため	物的要因
4	教員・職員・学生の日本に対する興味関心や需要が高いため	人的要因
5	教育の普及と質を向上させるため、教材を充実させるため	人的要因
6	日本に興味のある学生、将来の留学生を発掘するため	人的要因
7	日本に関する理解・関心を高めるため	人的要因
8	日本語専攻、日本研究講座、日本との交換留学制度があるため、新設するため	組織的要因
9	学際的な相乗効果を期待するため	組織的要因
10	国の日本語教育の中心的役割を果たしているため	組織的要因
11	日本の支援により建設されたため	制度的要因
12	日本との外交友好関係強化のため	制度的要因
13	JICAチェア対象機関であるため	制度的要因
14	日本企業とのつながりが強いため	制度的要因
15	中国からの支援が多く、日本のプレゼンスが必要	制度的要因

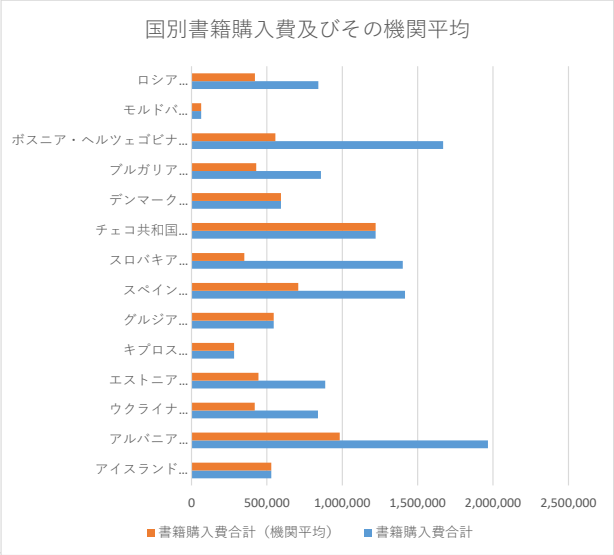


⑥ 輸送費、書籍購入費

各国宛ての延べ輸送費は、ボスニア・ヘルツェゴビナ（3 機関)、次いでロシア（2 機関）が航空便で最も高額となった。1 機関あたりの平均輸送費についても、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ロシアの順に高額となった。

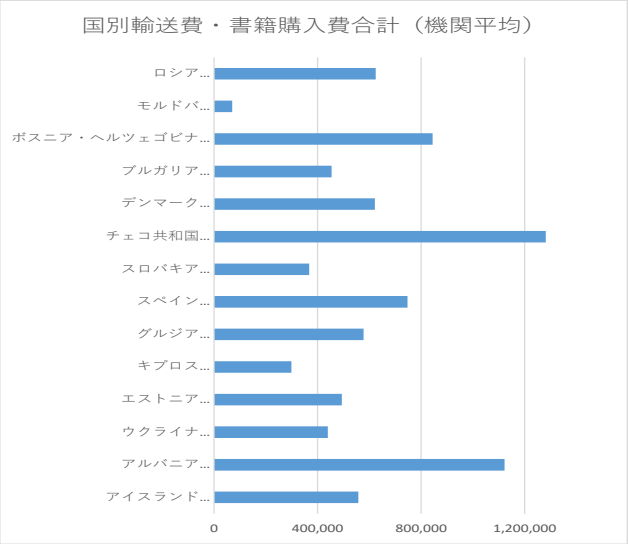
各国宛ての書籍購入費が最も高額となったのは、アルバニア（278 冊)、次いでボスニア・ヘルツェゴビナ（238 冊）で、スペイン（197 冊）と延べ寄贈冊数が多い国が続いた。1 機関あたりの平均書籍購入費については、チェコ共和国、アルバニアの順に高額となった。

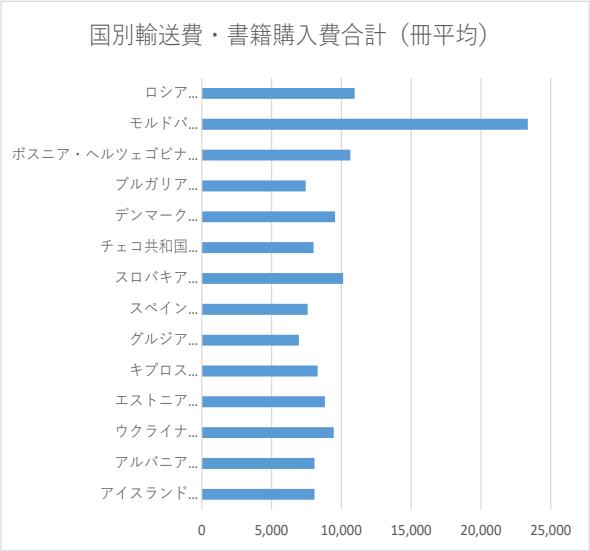




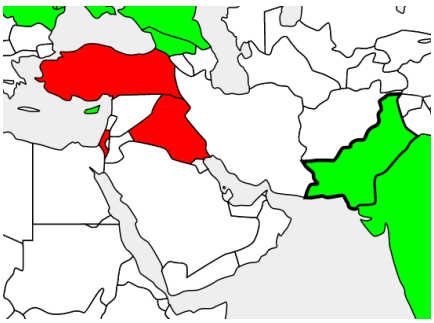
輸送費と書籍購入費の合計の国別機関平均費用は、1 機関宛て 160 冊とこの地域における機関平均最多の書籍を船便で輸送したがチェコ共和国が最高額となり、アルバニアボスニア・ヘルツェゴビナ、スペインが続いた。この地域全体の輸送費と書籍購入費の合計の機関平均は、約 607,000 円となった。

輸送費と書籍購入費の合計の国別冊平均費用は、モルドバが最高額となり、最低額であったグルジアの 3 倍強となった。次いで、ロシア、ボスニア、スロバキアが続いた。この地域全体の輸送費と書籍購入費の合計の冊平均は、約 11,000 円となった。



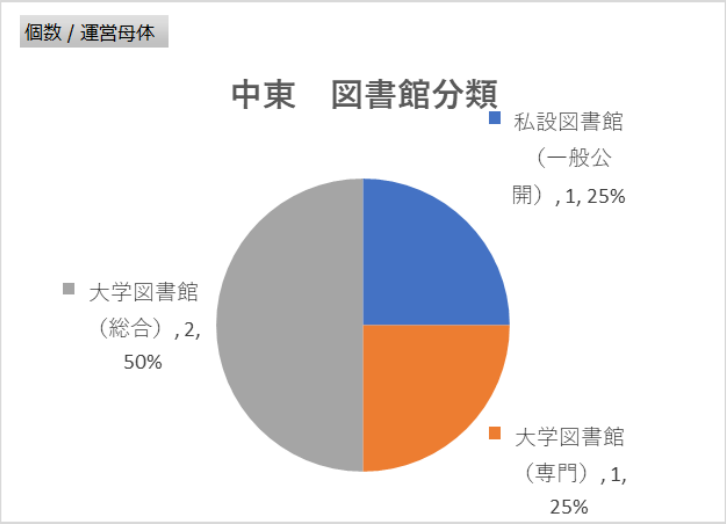


4.　中東

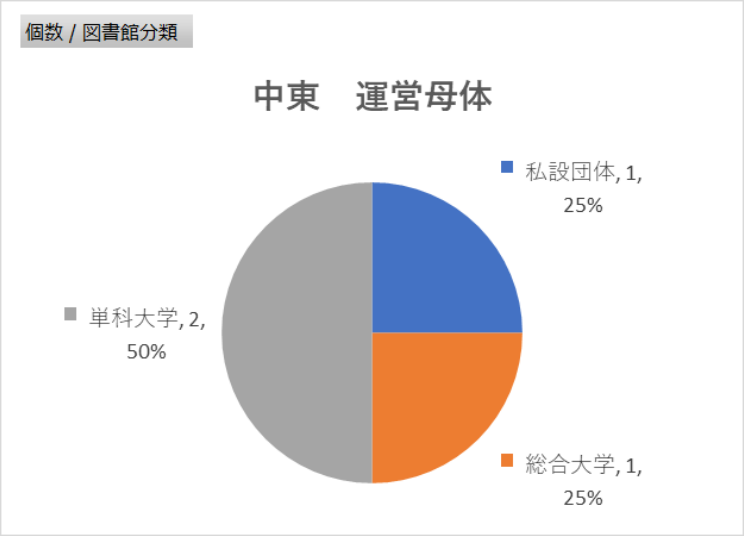


① 申請機関分類

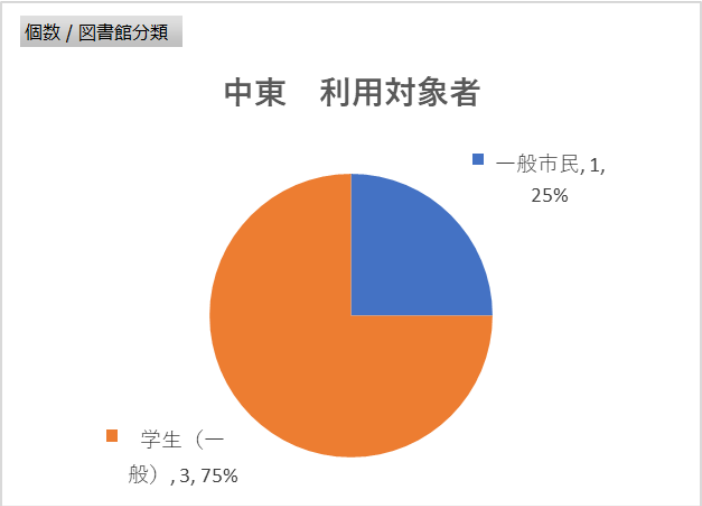
大学総合図書館（50%）のほか、美術大学の専門図書館（25%）、日本文化センター（25%）からの申請もあった。



これらの図書館を運営母体別に分類すると、上述の通り、総合大学、単科大学、私設団体である。

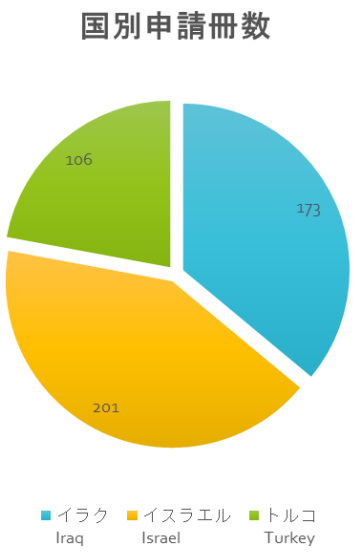


これらの図書館の利用対象者として想定されるのは、大学図書館の学生であり、専攻分野を超えて所属学生一般に広く門戸が開かれているとみられる（75%）。一般市民に公開された文化センター（11%）もあった。



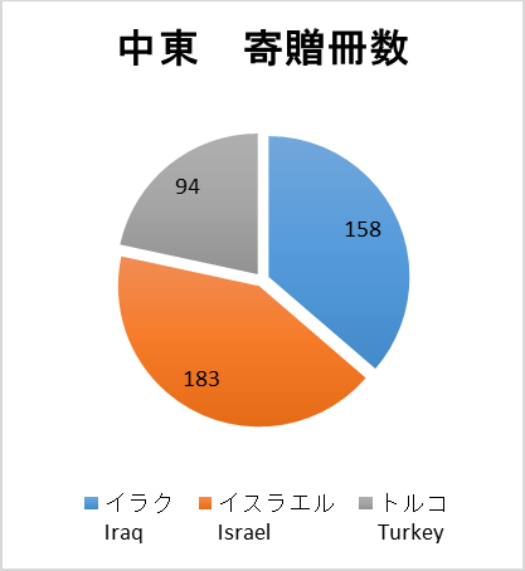
② 申請機関数・申請冊数

中東は、4 機関 480 冊と際立って少なく、イスラエル（2 機関 201 冊）、イラク（1 機関 173 冊）、トルコ（1 機関 106 冊）であった。



③ 寄贈実績

寄贈機関は、申請機関と同じ全 4 機関であった。寄贈冊数は、在庫確定後に振り分けを行い、435 冊となった。



④ 申請分野別ランキング

■　政治・国際関係

申請数各 3 冊の書籍が 13 件、申請数各 2 冊の書籍が 18 件ある。最下位は、Broadcasting Politics in Japan、Constructing Civil Society in Japan、Japan's Quest for a Permanent Security Council Seat が各 1 冊であった。

■　経済・ビジネス

申請数 3 冊の書籍が 11 件、次いで申請数 2 件が 18 件並ぶ。最下位は、Japan Remodeled（1 冊）であった。

■　社会・文化

最上位は、Ise Jingu、From Chinese Chan to Japanese Zen、The Japanese House、Pink Globalization、Empire of the Signs、Robo Sapiens Japanicus、Imaging disaster が各 4 冊であった。

最下位は、The Anatomy of Dependence（1 冊）の他は、同数 2 冊の申請書籍が多かった。

■　文学・芸術

申請数各 4 冊の書籍が 9 件、申請数各 2 冊の書籍が 18 件ある。次いで申請数 3 冊の書籍が 26 件であった。

最下位は、Manga（1 冊）の他、申請数各 2 冊の書籍が 5 件ある。

■　歴史

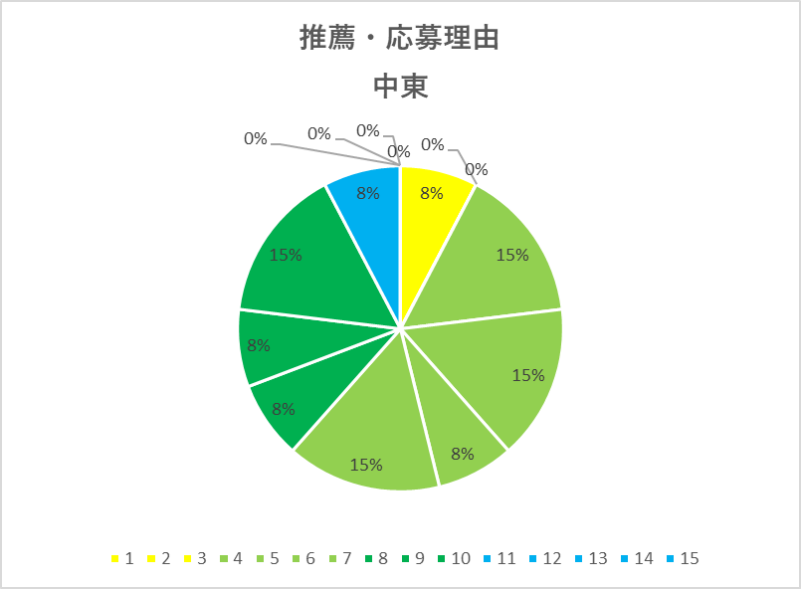
最上位は A Cultural History of Japanese Buddhism（4 冊）であった。次いで申請数各 3 冊の書籍が 11 件、申請数各 2 冊の書籍が 13 件ある。

他地域から際立った特徴として、美術学校を含むため文学・美術の関心が高かった。

⑤ 推薦・申請理由

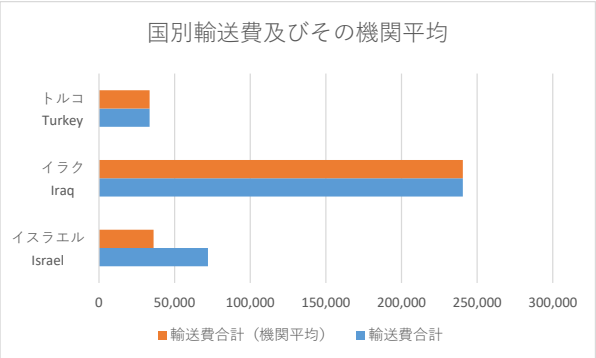
最も多いのは人的要因で、全体の 53%を占めた。次いで組織的要因が 31%、物的要因が 8%、制度的要因が 8%であった。

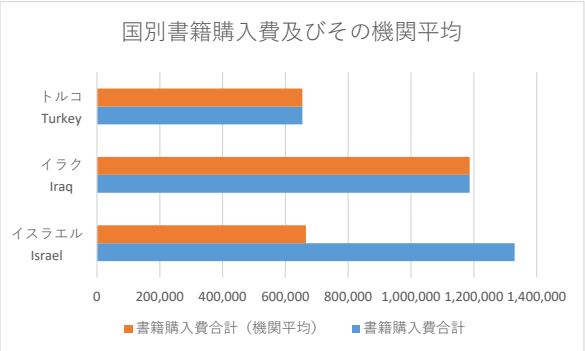
1	日本に関する書籍・情報源がないため、更新するため、拡充するため	物的要因
2	英語での海外に関する情報源を拡充するため	物的要因
3	予算がないため	物的要因
4	教員・職員・学生の日本に対する興味関心や需要が高いため	人的要因
5	教育の普及と質を向上させるため、教材を充実させるため	人的要因
6	日本に興味のある学生、将来の留学生を発掘するため	人的要因
7	日本に関する理解・関心を高めるため	人的要因
8	日本語専攻、日本研究講座、日本との交換留学制度があるため、新設するため	組織的要因
9	学際的な相乗効果を期待するため	組織的要因
10	国の日本語教育の中心的役割を果たしているため	組織的要因
11	日本の支援により建設されたため	制度的要因
12	日本との外交友好関係強化のため	制度的要因
13	JICAチェア対象機関であるため	制度的要因
14	日本企業とのつながりが強いため	制度的要因
15	中国からの支援が多く、日本のプレゼンスが必要	制度的要因



⑥ 輸送費、書籍購入費

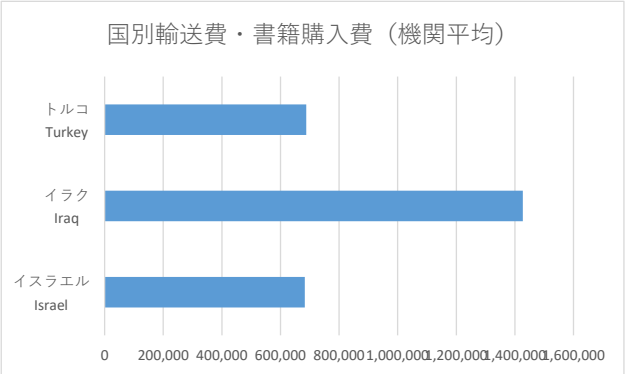
各国宛ての延べ輸送費、1 機関あたりの平均輸送費とも、航空便を使用したイラク（1 機関）が最も高額となり、次いで船便使用のイスラエル（2 機関）、トルコ（1 機関）が続いた。各国宛ての書籍購入費が最も高額となったのは、イラクで、次いでイスラエル、トルコが続いた。1 機関あたりの平均書籍購入費については、イラクが最高額で、トルコ、イスラエルと続いた。

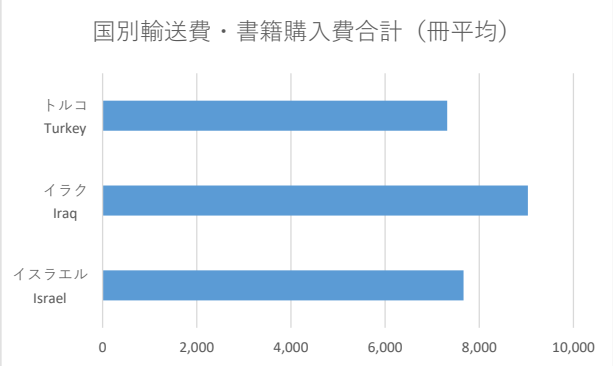




輸送費と書籍購入費の合計の国別機関平均費用は、1 機関 158 冊とこの地域における機関平均最多となる寄贈書籍を航空便で輸送したイラクが最高額となり、トルコ、イスラエルが続いた。この地域全体の輸送費と書籍購入費の合計の機関平均は、約 814,000 円となった。

輸送費と書籍購入費の合計の国別冊平均費用は、イラクが最高額となったが、ほぼ同程度の経費であった、この地域全体の輸送費と書籍購入費の合計の冊平均は、約 8,100 円となった。

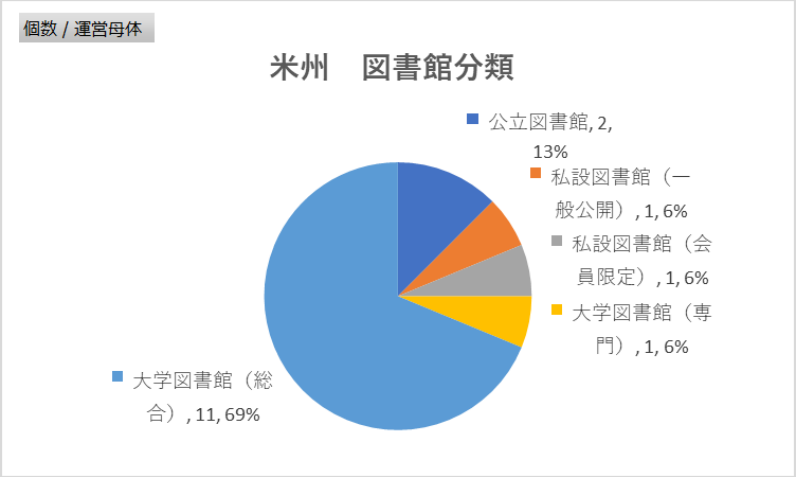




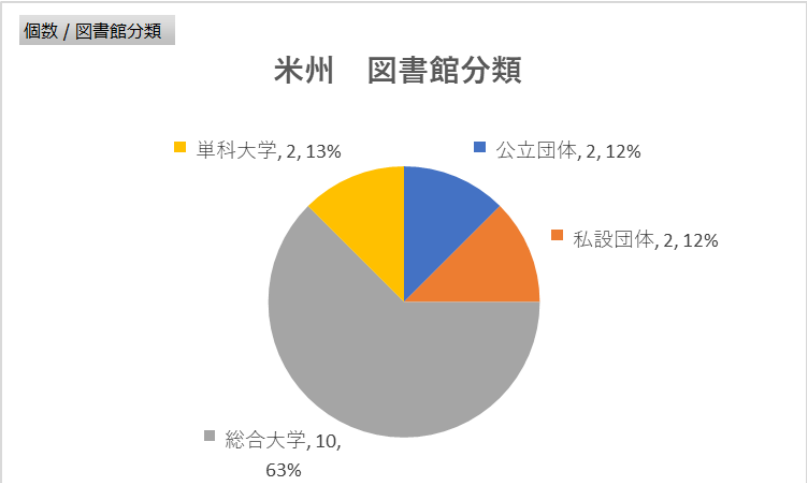
5.　米州

① 申請機関分類

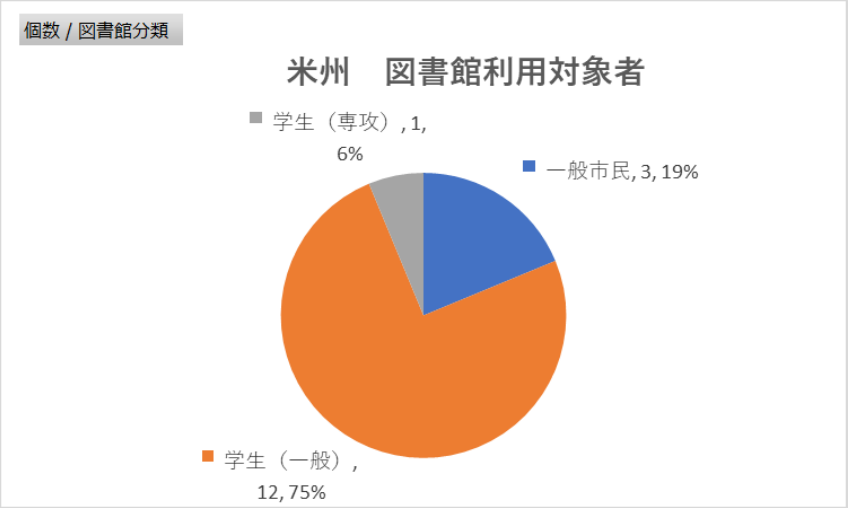
最も多いのは大学図書館で、幅広い分野の蔵書を有する総合図書館（69%）のほか、特定の学部研究科に付属する専門図書館（6%）からの申請もあった。公立図書館 13%、私設図書館も 12%見られた。



これらの図書館を運営母体別に分類すると、総合大学が最も多く 63%を占め、次いで単科大学が 13%、公立団体が 12%、私設団体が 12%であった。

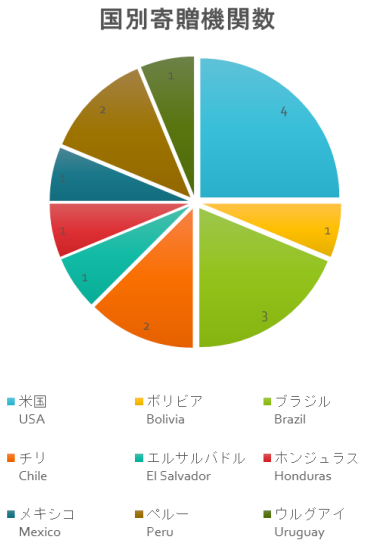


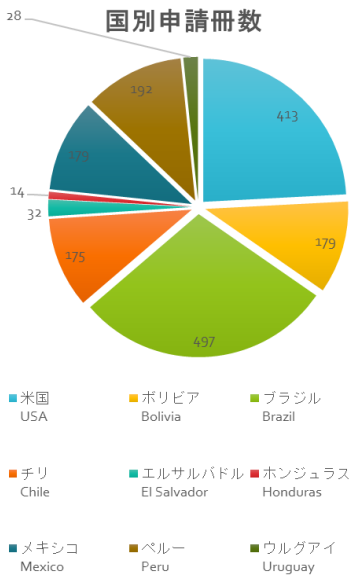
これらの図書館の利用対象者として想定されるのは、学生一般に広く門戸が開かれた大学図書館（75%）のほか、私立学院の学生の利用が想定される場合も見られた。一般市民を対象とする公立図書館や文化センター（19%）もあった。



② 申請機関数・申請冊数

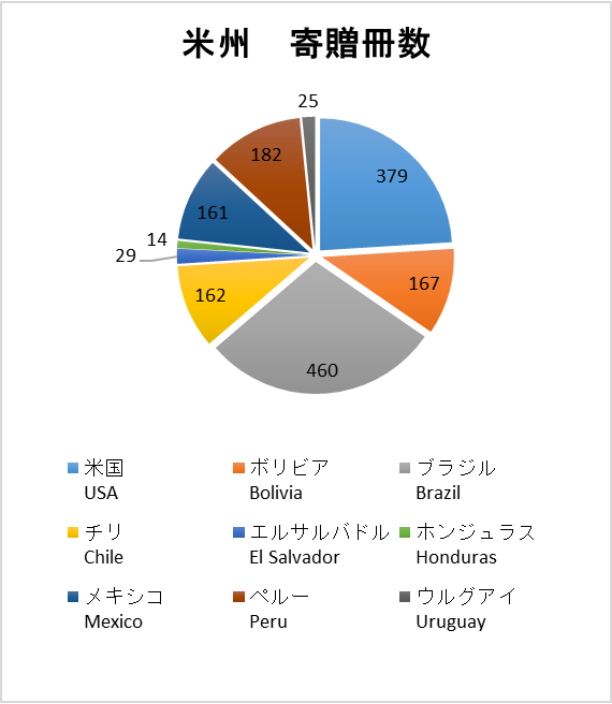
米州（16 機関 1,709 冊）のうち、米国（4 機関 413 冊）、ブラジル（3 機関 497 冊）が最多であった。最も少なかったのはホンジュラス（1 機関 14 冊）、ウルグアイ（1 機関 28 冊）、エルサルバドル（1 機関 32 冊）であった。





③ 寄贈実績

寄贈機関は、申請機関と同じ全 16 機関であった。寄贈冊数は、在庫確定後に振り分けを行い、1,579 冊となった。



④ 申請分野別ランキング

■　政治・国際関係

最上位は Japanese Foreign Policy at the Crossroads（13 冊）、The Logic of Japanese Politics（12 冊）で、次いで Japan Rising、Media and Politics in Japan、Network Power、The U.S.-Japan Alliance、The diplomatic history of postwar Japan、Welfare and Capitalism in Postwar Japan が各 11 冊であった。

最下位は、A Discourse by Three Drunkards on Government、Why Adjudicate?が各 6 冊、Machiavelli's Children、The Turbulent Decade、Five Years After、Japan Copes with Calamity、Precarious Japan が各 7 冊であった。

■　経済・ビジネス

最上位は、Japan in the 21st Century（12 冊）、The Economics of Work in Japan（11 冊）、An Anticlassical Political-Economic Analysis、The Japanese Economic System and its Historical Origins、Lectures on Modern Japanese Economic History, 1926-1994、Examining Japan's Lost Decades、The Political Economy of Japan's Low Fertility が各 10 冊であった。

最下位は、Four Practical Revolutions in Management、21st-Century Japanese Management が各 6 冊、次いで申請件数各 7 冊の書籍が 10 件あった。

■　社会・文化

最上位は、Haruki Murakami Goes to Meet Hayao Kawai、Premodern Japan、Japan が各 13 冊であった。

最下位は、Ghosts of the Tsunami、Bending Adversity、Aging and Loss、Lost Japan が各 7 冊であった。

■　文学・芸術

最上位は History of art in Japan（14 冊）、Hokusai（13 冊）、Kabuki、Dawn of Japanese Photography: The Anthology、The Penguin Book of Japanese Short Stories が各 12 冊であった。

最下位は、The Cape and Other Stories from the Japanese Ghetto、Erotic Grotesque Nonsense、Kafu the Scribbler、The Midnight Eye Guide to New Japanese Film が各 8 冊であった。

■　歴史

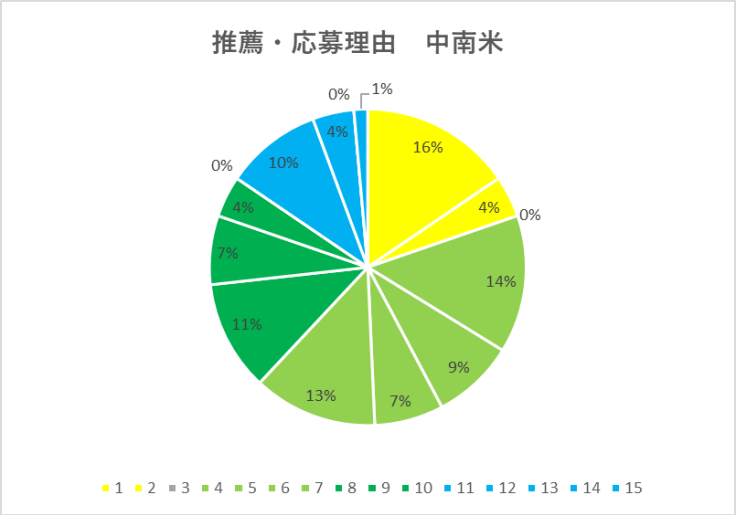
最上位は、A Cultural History of Japanese Buddhism、The Long Defeat、A Modern History of Japan が各 12 冊であった。

最下位は、Japan Since 1945（7 冊）、A Diary of Darkness、Japan at Nature's Edge が各 8 冊であった。

⑤ 推薦・申請理由

最も多いのは人的要因で、全体の 43%を占めた。次いで組織的要因が 22%、物的要因が 20%、制度的要因が 15%であった。

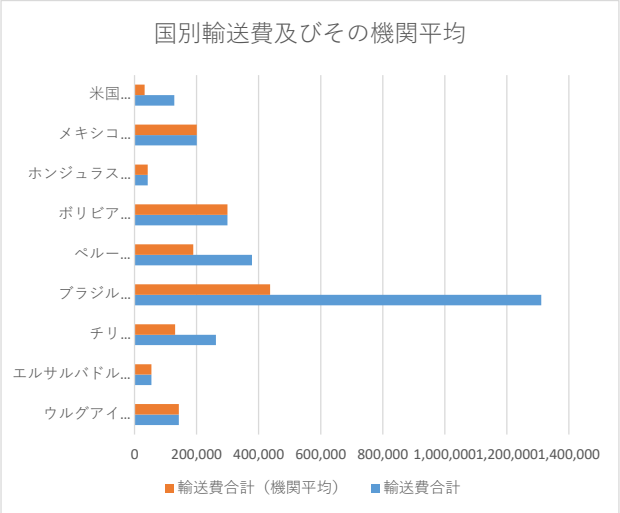
1	日本に関する書籍・情報源がないため、更新するため、拡充するため	物的要因
2	英語での海外に関する情報源を拡充するため	物的要因
3	予算がないため	物的要因
4	教員・職員・学生の日本に対する興味関心や需要が高いため	人的要因
5	教育の普及と質を向上させるため、教材を充実させるため	人的要因
6	日本に興味のある学生、将来の留学生を発掘するため	人的要因
7	日本に関する理解・関心を高めるため	人的要因
8	日本語専攻、日本研究講座、日本との交換留学制度があるため、新設するため	組織的要因
9	学際的な相乗効果を期待するため	組織的要因
10	国の日本語教育の中心的役割を果たしているため	組織的要因
11	日本の支援により建設されたため	制度的要因
12	日本との外交友好関係強化のため	制度的要因
13	JICAチェア対象機関であるため	制度的要因
14	日本企業とのつながりが強いため	制度的要因
15	中国からの支援が多く、日本のプレゼンスが必要	制度的要因

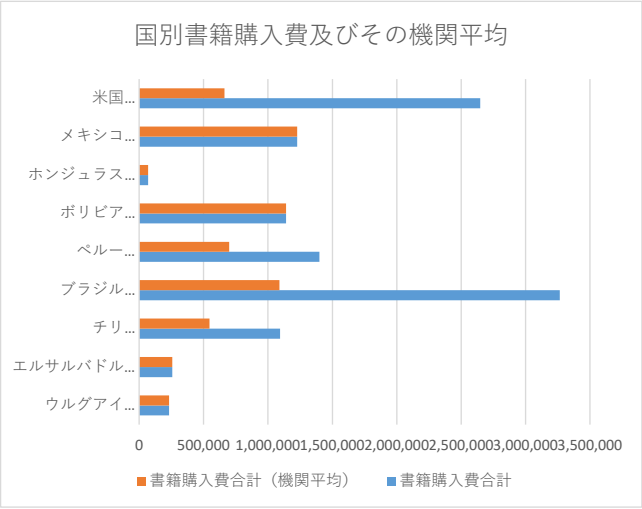


⑥ 輸送費、書籍購入費

各国宛ての延べ輸送費については、ブラジル（2 機関）、ペルー（1 機関）、ボリビア（1 機関）が航空便の使用により順に高額となった。1 機関あたりの平均輸送費が最も高額となったのは、ブラジルで、ボリビア、メキシコと続いた。

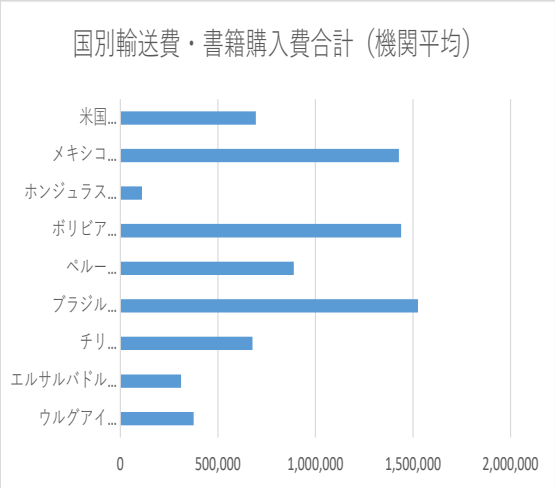
各国宛ての書籍購入費が最も高額となったのは、ブラジル（3 機関）、次いで米国（4 機関）、ペルー（2 機関）、メキシコ（1 機関）と続くが、寄贈機関数と寄贈冊数の多い国が高額となった。

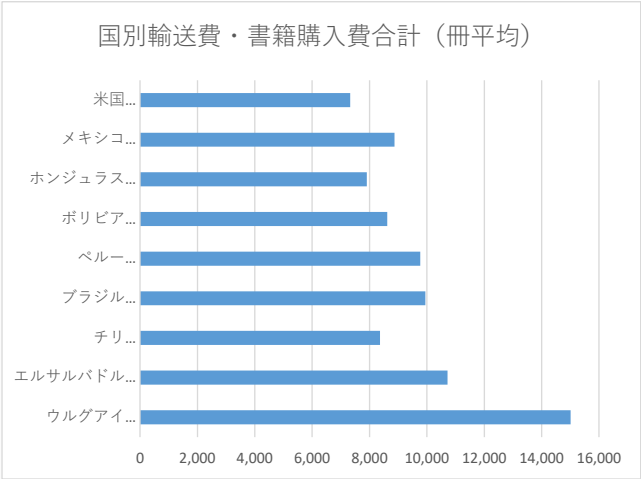




輸送費と書籍購入費の合計の国別機関平均費用は、3 機関宛て合計 460 冊とこの地域における機関平均最多となる寄贈書籍を航空便（2 機関）、船便（1 機関）で輸送したブラジルが最高額となり、ボリビア、メキシコ、ペルーが続いた。この地域全体の輸送費と書籍購入費の合計の機関平均は、約 884,000 円となった。

輸送費と書籍購入費の合計の国別冊平均費用は、1 機関宛て合計 25 冊と少量を航空便で輸送したウルグアイが最高額となり、最も低額となった米国の 2 倍強となった。次いで、エルサバドル、ブラジル、ペルーと続き、この地域全体の輸送費と書籍購入費の合計の冊平均は、約 9,000 円となった。





Ⅲ．参考資料

READ JAPAN PROJECT国別寄贈実績表（2020年4月～2021年12月）

国・地域	機関数(A)	寄贈冊数(B)	平均寄贈冊数 (B/A)
アイスランド	1	69	69
アルバニア	2	278	139
イスラエル	2	183	92
イラク	1	158	158
インド	10	1,059	106
インドネシア	2	205	103
ウクライナ	2	93	47
ウルグアイ	1	25	25
エストニア	2	112	56
エルサルバドル	1	29	29
カメルーン	1	167	167
カンボジア	1	22	22
キプロス	1	36	36
グルジア	1	83	83
コンゴ	1	100	100
スペイン	2	197	99
スロバキア	4	145	36
チェコ	1	160	160
チリ	2	162	81
デンマーク	1	65	65
トルコ	1	94	94
ナミビア	1	30	30
ネパール	2	238	119
パキスタン	1	98	98
パプアニューギニア	1	117	117
バングラデシュ	2	237	119
フィリピン	1	162	162
ブータン	2	182	91
ブラジル	3	460	153
ブルガリア	2	122	61
ベトナム	9	949	105
ペルー	2	182	91
ボスニア・ヘルツェゴビナ	3	238	79
ボツワナ	2	314	157
ボリビア	1	167	167
ホンジュラス	1	14	14
マダガスカル	2	122	61
マラウィ	2	128	64
メキシコ	1	161	161
モザンビーク	1	78	78
モルドバ	1	3	3
モンゴル	2	48	24
ラオス	1	66	66
ロシア	2	114	57
韓国	1	158	158
香港	1	160	160
南アフリカ	1	168	168
アメリカ	4	379	95
全地域	**92機関**	**8,537冊**	**93冊**